自走式カッター

取扱説明書

CSX170—C

ご使用の前に必ずお読み下さい。

atex

はじめに

●このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。

●この取扱説明書は、本製品を安全にご使用していただくため、是非守っていただきたい安全作業に関する基本的事項と最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●本製品を初めて運転されるときはもちろん、日頃の運転・取扱いの前にもこの取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。説明書を紛失又は損傷された場合は、速やかにお買い上げ先へご注文ください。

●本製品を貸与、又は譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分に理解していただき、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。

●なお、品質、性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容及びイラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げ先へご相談ください。

●取扱説明書の中の ⚠重要 表示は、次のような安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守ってください。

表　示	重　　要　　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。

⚠注意 ●本製品は、圃場内作業車ですので、公道及び公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故及び違反につきましては、責任を負いかねます。

目　次

重要安全ポイントについて

１．カッターの点検・整備をするときは、
必ずエンジンを停止させます。

２．カッターの刃や回転部等、
危険なところへは手を触れません。

３．カッター作業中に詰まりが発生した場合には、
必ずエンジンを停止してワラを取り除きます。

４．補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし、安全を確認します。

５．路肩・軟弱地で使用する時は、
転落・転倒しないように十分注意してください。

６．圃場への出入り、トラックへの積み降ろしは、
低速（1速又はR1速）かつエンジン最低回転で行ないます。

７．作業や移動をするときは、
急発進・急旋回は避けてください。

８．運転・作業をするときは、
安全カバー類が取り付けられていることを確認してください。

９．点検・調整をするときは、
必ずエンジンを止め、機械の停止を待ってください。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは前ページの通りですが、これ以外にも本文の中で安全上是非守っていただきたい事項を ⚠重要 の記号を付して説明の都度取りあげております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

安全表示ラベルの注意

■ 本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。
■ 安全表示ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。 安全表示ラベルは、お買い上げ先へ注文してください。
■ 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
■ 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買い上げ先へ注文してください。
■ 安全表示ラベルには、洗車時に直接圧力水をかけないでください。
■ 安全表示ラベル貼付位置については、２，３ページを参照してください。

安全表示ラベル貼付位置

0116-911-015-0
⚠ 警告
飛散物又は吐出物が当たり、ケガをすることがあります。
運転中又は回転中に、なかをのぞいたり吐出方向に近寄ったりしないでください。
0116-911-015-0

0116-911-013-0
⚠ 警告
運転中又は回転中にカバーを開けると回転物に接触しケガをすることがあります。
カバーを開けないでください。
0116-911-013-0

0438-910-024-0
⚠ 危険
障害物に、はさまれるおそれがあります。
進行方向の安全を常に確認してください。
0438-910-024-0

0453-910-021-0
⚠ 危険
転落・転倒するおそれがあります。
路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。
0453-910-021-0

0116-911-011-0
⚠ 危険
運転中又は回転中なかに手を入れると回転物に接触し、ケガをすることがあります。
なかに手を入れないでください。
0116-911-011-0

0166-916-011-0
⚠ 危険
引火のおそれがあります。
エンジンに、付着したゴミ、藁等は、取り除いてください。
0166-916-011-0

0453-910-027-0
⚠ 注意
本機を運転するときには、必ず取扱説明書をお読みください。
1. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認してください。
2. 運転前には、必ず点検や整備をしてください。
3. 点検や整備をするときは、必ず動力（エンジン・電源など）を停止してから行なってください。
4. 原動機の点検整備は、原動機が冷えてから行なってください。
5. 原動機は、加熱しますので周囲をいつも確認し、火災防止に、つとめてください。
6. 点検整備で取り外したカバー類は、必ず元の通りに取付けてください。
0453-910-027-0

エンジン部品
⚠ 注意
傷害事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
⚠ 警告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
●給油時にはエンジンを停止すること。
●給油口に火を近づけないこと。

0116-911-014-0
⚠ 警告
運転中又は回転中にカバーを開けると回転物に接触し、ケガをすることがあります。
カバーを開けないでください。
0116-911-014-0

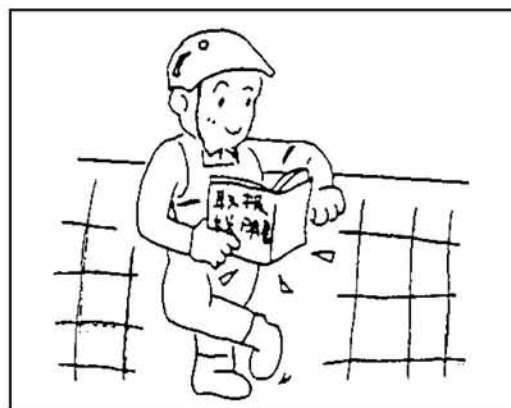
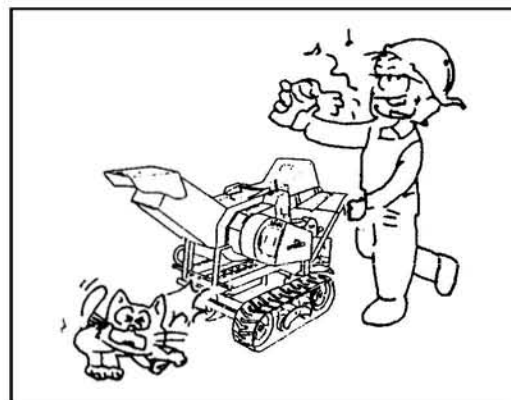
安全表示ラベル貼付位置

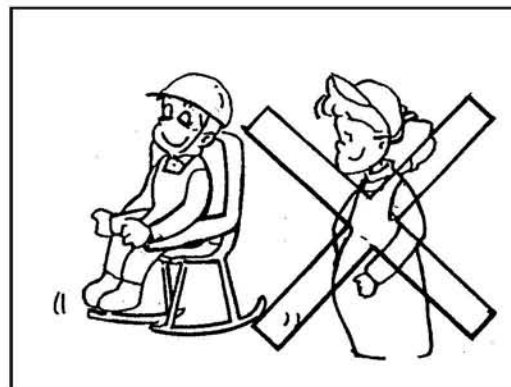
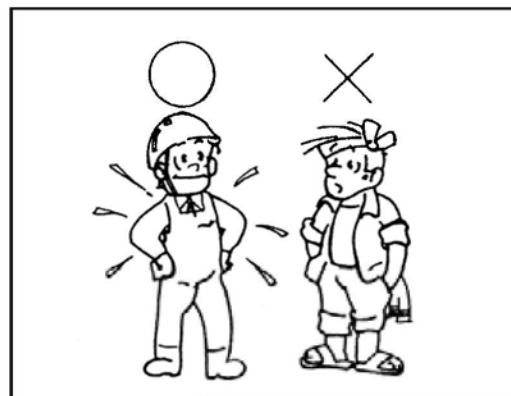
安全のポイント

安全な作業をするために

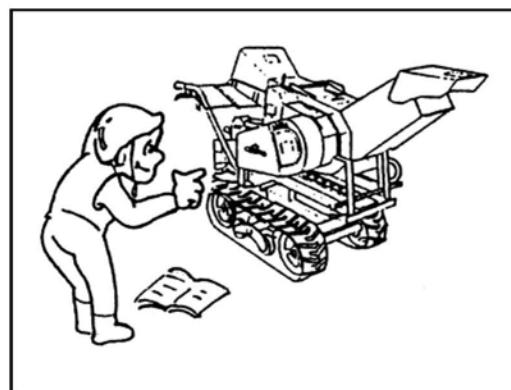
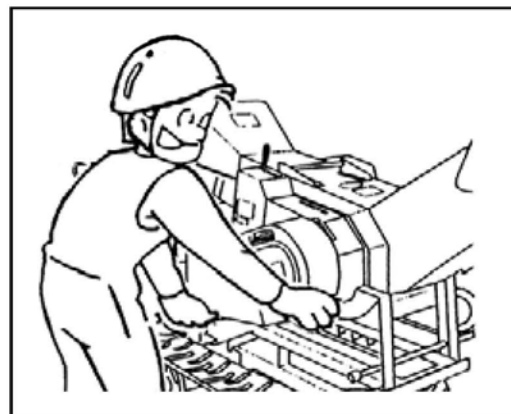
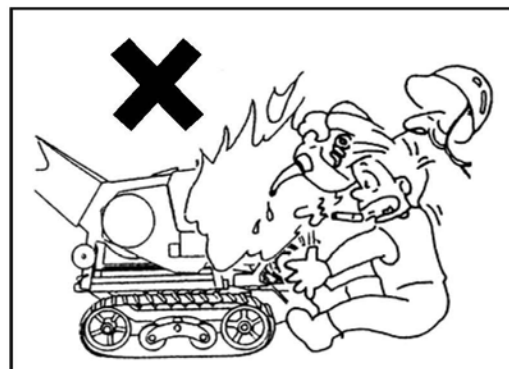
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

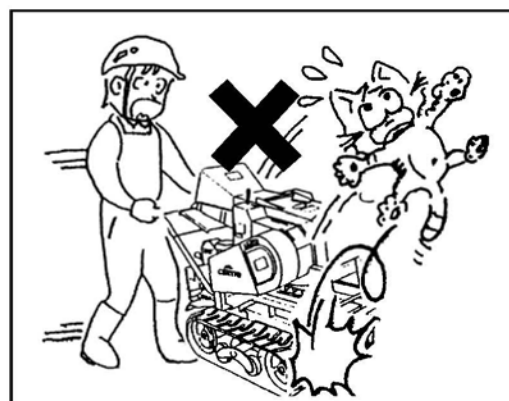
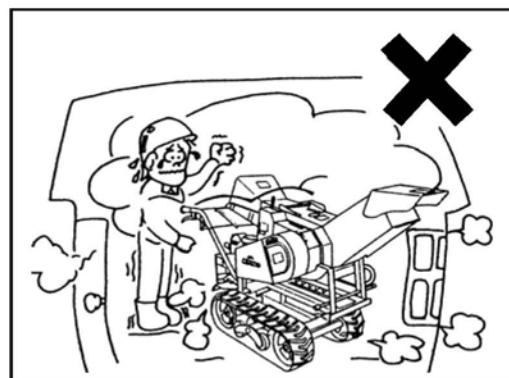
■ 運転者の条件

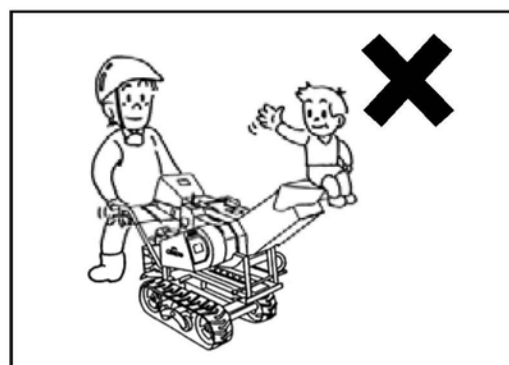
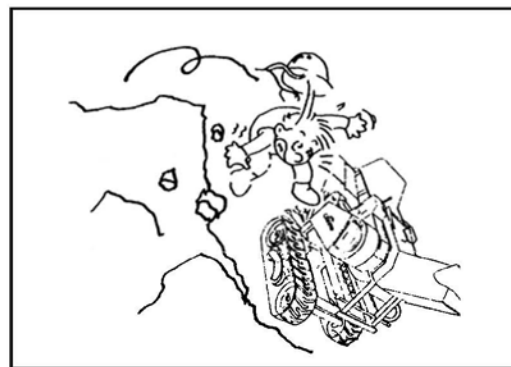
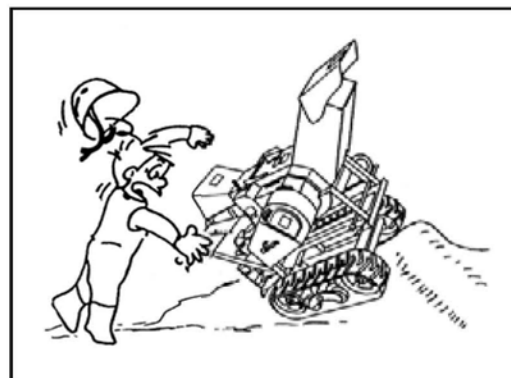
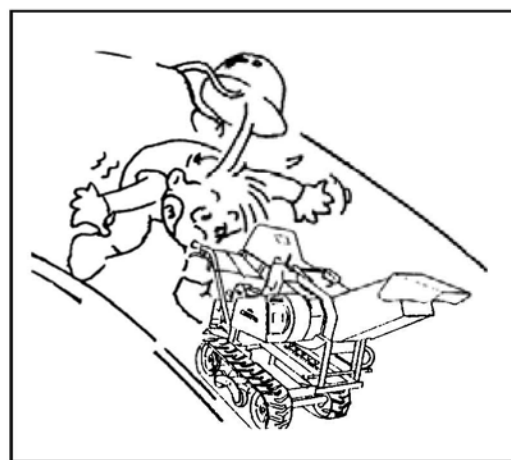
(1) この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。

(2) 飲酒時や過労ぎみの時、また妊娠している人、子供など未熟練者は絶対に作業をしてはいけません。作業を行なうと、思わぬ事故を引き起こします。作業をする時は、必ず心身とも健康な状態で行なってください。

(3) 作業が長時間続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとってください。

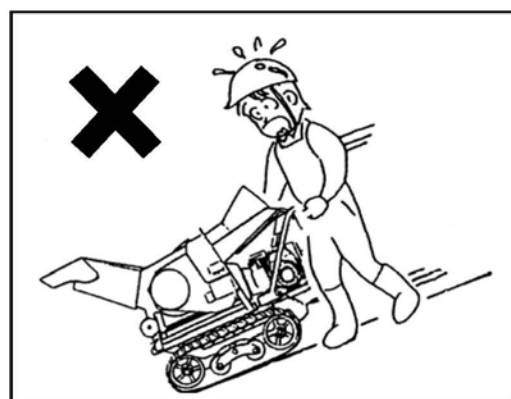
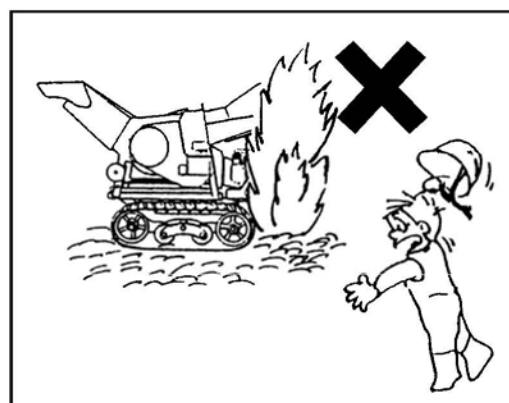
また、妊娠している人は、絶対に作業しないでください。

(4)　服装は作業に適したものを着てください。
　服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がすべるなどして大変危険です。
　ヘルメットや皮手袋、適正な保護具も着用してください。

(5)　人に機械を貸すときは、取扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を熟読するように指導してください。借りた人が機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

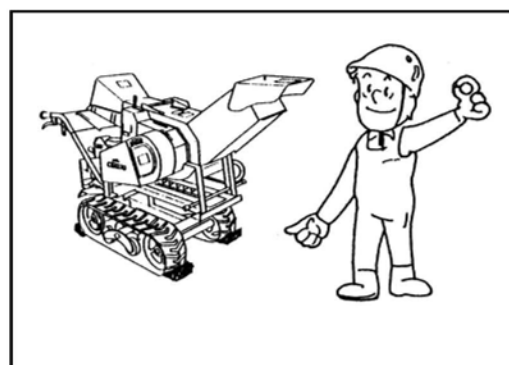
■作業を開始する前に

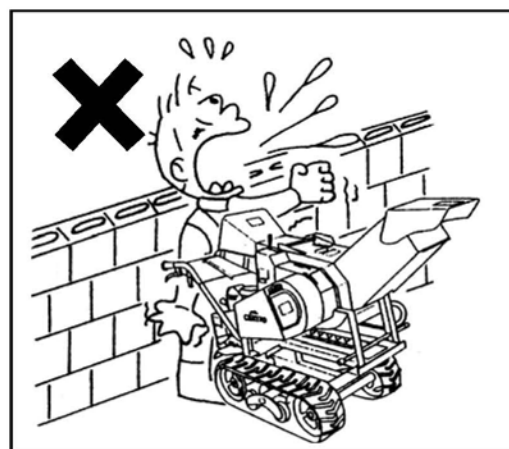
(1)　作業する前に、本書「取扱説明書」を参考に必要な点検を必ず行なってください。点検を怠るとブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったり刃の破損など走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

(2)　安全カバー類が外されたままになっていないかを確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり、運転作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。

(3)　燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、必ずエンジンが停止した状態で行ない、くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。

■始動と発進は

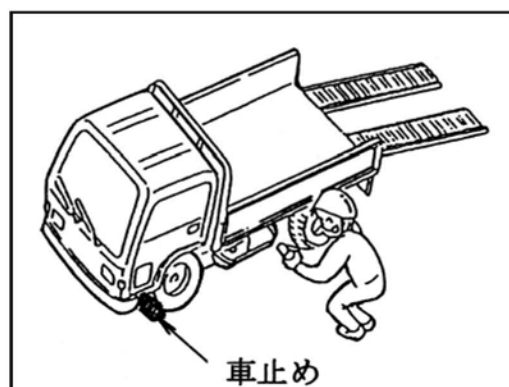
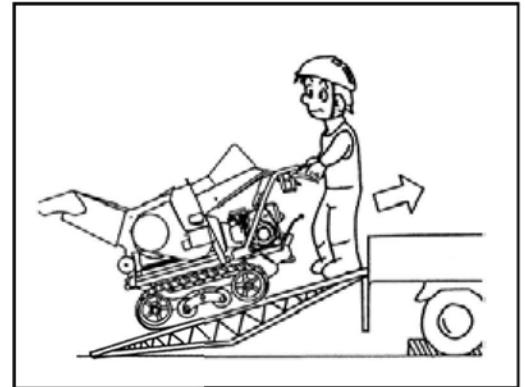
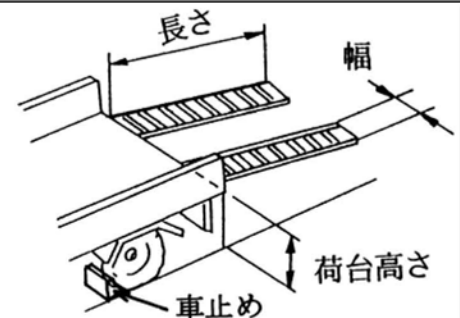
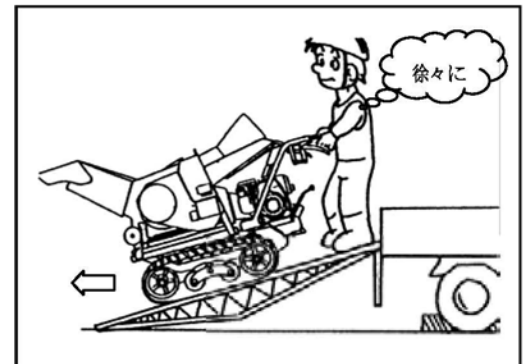
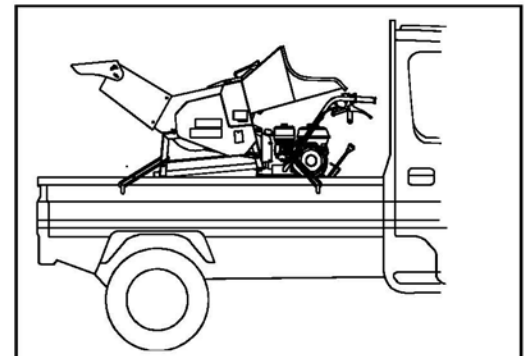
(1)　エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーを「切」位置にして行なってください。
また発進時は、各レバー位置と周囲の安全を確かめてゆっくりと発進してください。
急発進は危険です。

(2)　室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排ガス中毒を起こし大変危険です。

■走行するときは

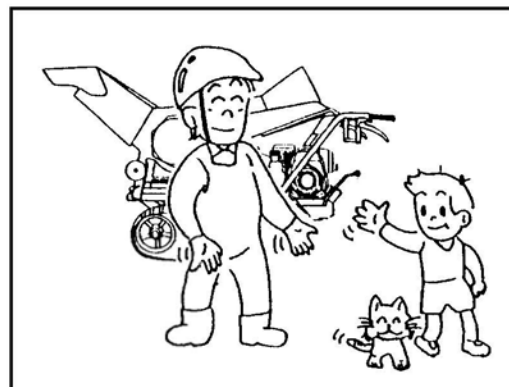
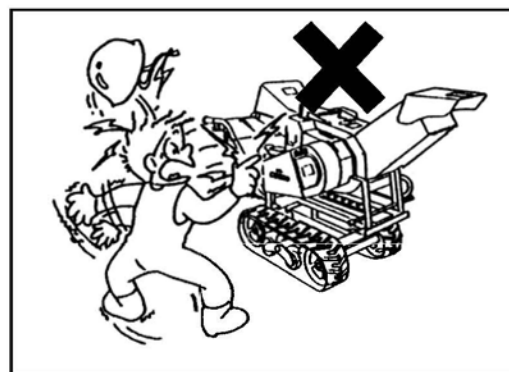
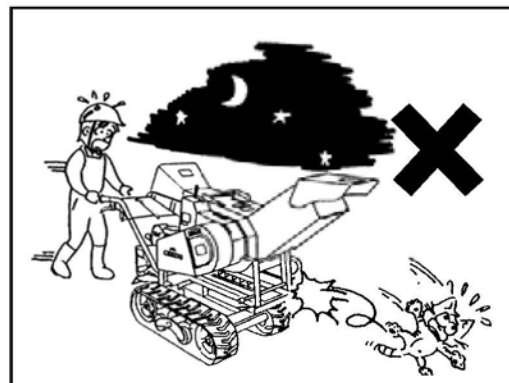
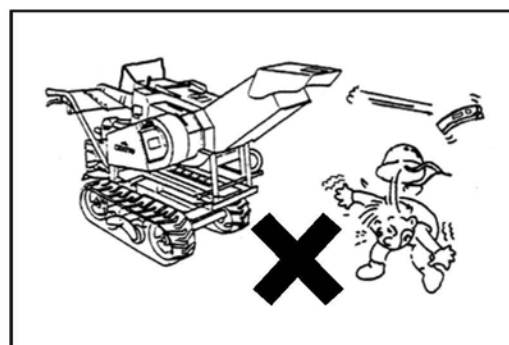
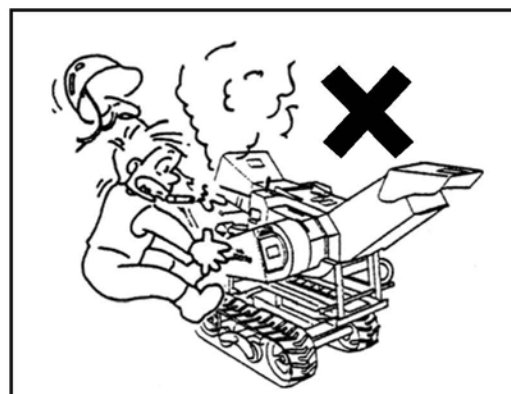
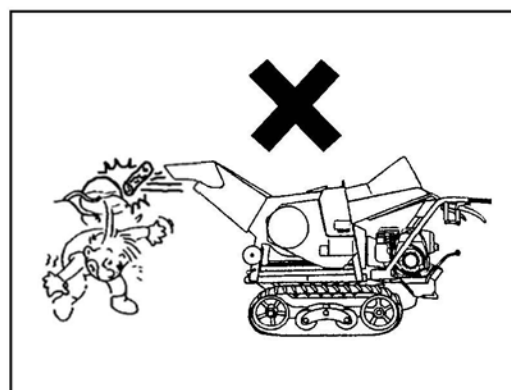
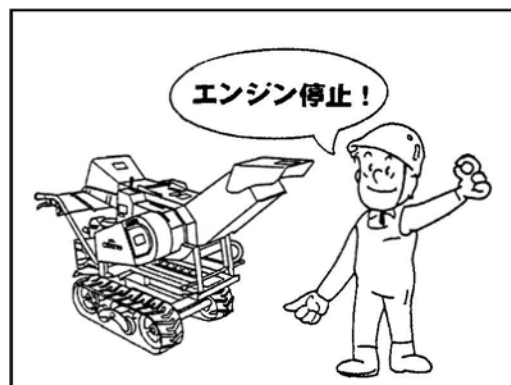
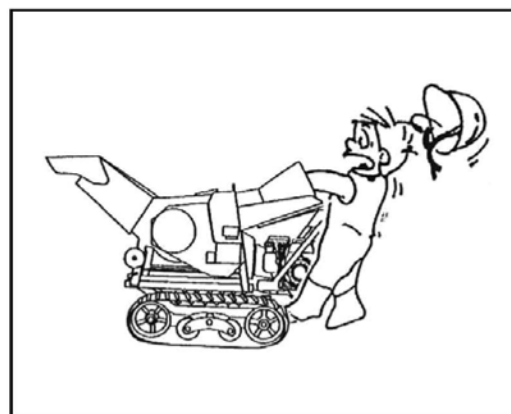
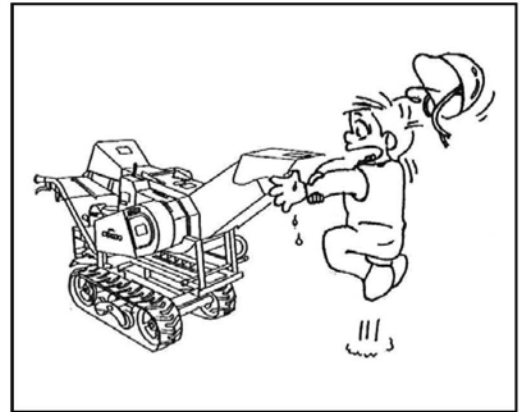
(1)　いかなる場合も、人や動物を乗せないでください。作業の際はもちろん、走行中の急旋回、重心の移動等により大変危険です。

(2)　凸凹の激しい所・軟弱地盤・側溝のある道や両側が傾斜している道などで走行するときは、速度を落として十分に注意してください。衝突や転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(3)　溝の横断や畦越えをするときは必ずアユミ板を使用し、微速にて溝・畦と直角にゆっくりと走行してください。これらを怠ると、衝撃で機械を破損させたり、脱輪やスリップ等により転倒し、傷害事故をおこす恐れがあり大変危険です。

(4)　傾斜地は、低速でまっすぐに昇り降りしてください。斜面を横切ったり、旋回をすると転倒する恐れがあります。特に下り坂では、曲がろうとして、サイドクラッチレバーを切った場合、切った側が流され、思う方向と逆に進むことがあり大変危険です。

(5)　坂道では、低速でゆっくりと、また下るときは変速レバーを「１速」位置にし、エンジンブレーキを効かせてください。変速レバーを「中立(N)」位置にしないでください。本機が加速し、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

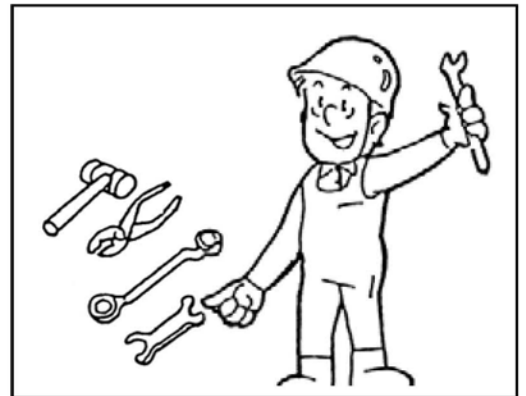
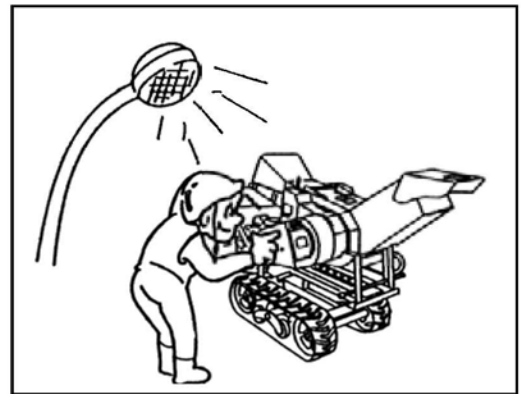
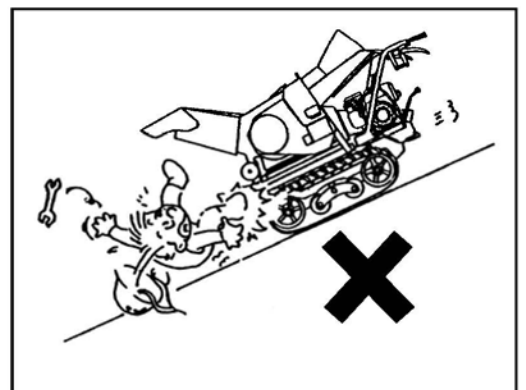
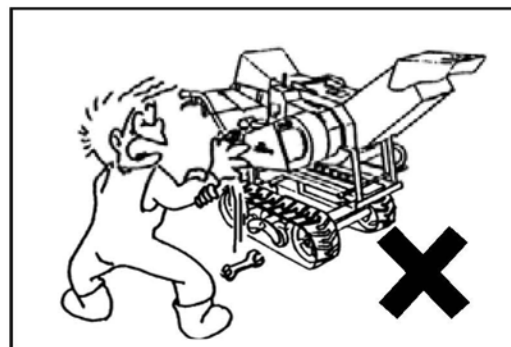
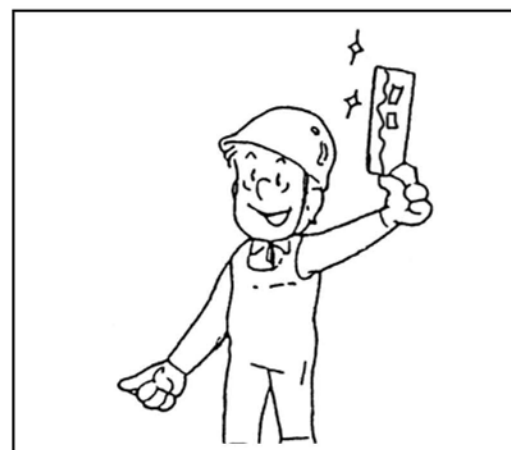
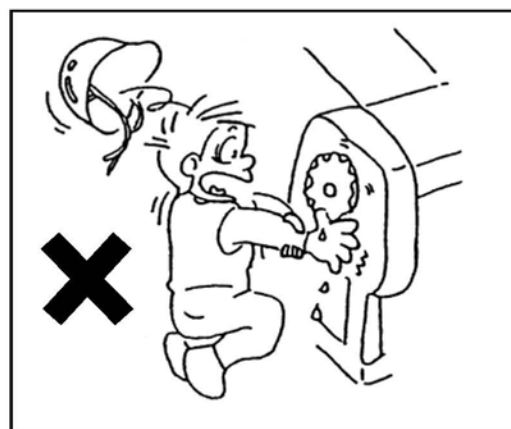
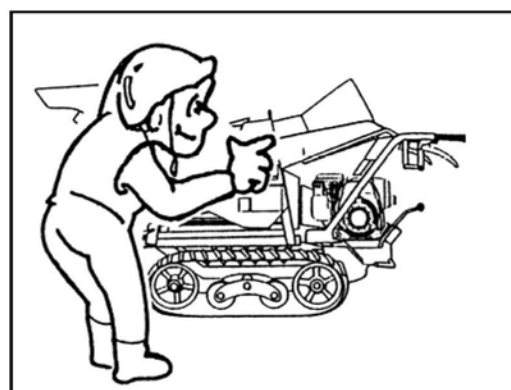
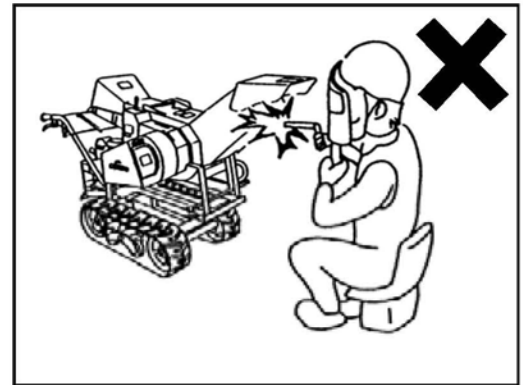
本機のブレーキは、駐車専用です。

(6)　草やワラなど可燃物の上に止めないでください。排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原因となる恐れがあります。

(7)　本機から離れるときは、エンジンを停止し、確実に走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にし、変速レバーを「１速」位置にして、歯止め（車止め）をしてください。

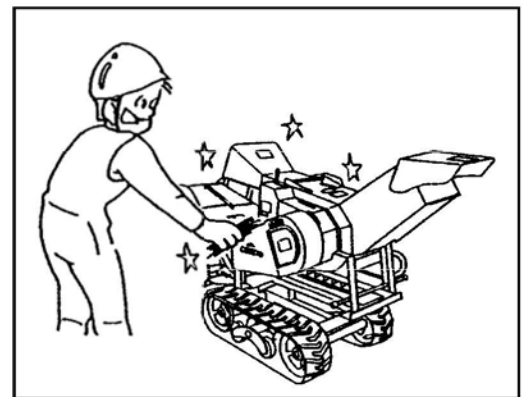
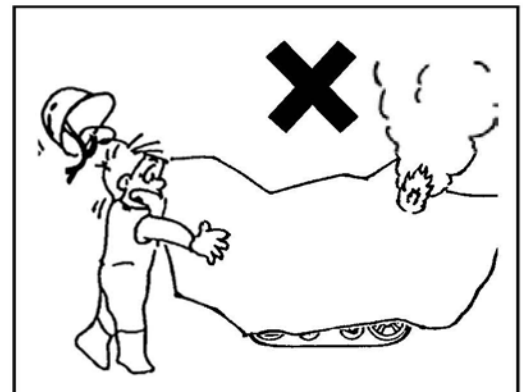
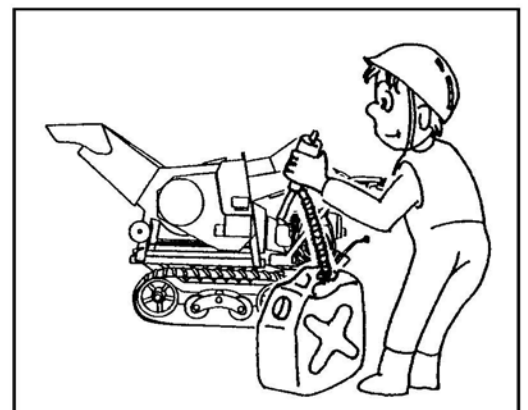
また、駐車するところは、平坦で広い地面の硬い安全な場所を選んでください。本機が自然に動きだすなど大変危険です。

(8)　わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。進行方向、特に後進時は、周囲の障害物に注意してください。

本機は、走行クラッチレバーが狭圧防止装置となっておりますが、十分注意してください。

■トラックへの積込み・積降ろし

(1)　積込むトラックは、エンジンを止めて、変速レバーを「１速」または「R速」位置にして、駐車ブレーキをかけ歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると積込み・積降ろし時にトラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(2)　積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定め、低速(1 速又は R1 速)かつエンジン最低回転にて行なってください。アユミ板上での方向修正は転落事故の原因となり大変危険です。

〈アユミ板の基準〉
・長　さ…車の荷台高さの 4 倍以上 ・　幅　…本機クローラの 1.5 倍以上 ・数　量…2 枚 ・強　度…車体総重量の 1.5 倍以上（1 本当たり） ・すべらないよう処理されていること。

(3)　万一、途中でエンストした場合は、素早く走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。その後、徐々に走行クラッチレバーをゆるめ、一端地面まで降ろし、エンジン始動方法に従い、改めてエンジンを始動させてから行なってください。

(4)　トラック等で運搬するときは、本機の走行クラッチを「切」位置にし、歯止め（車止め）をし、必ずロープ等でトラックの荷台に固定してください。また運搬中は不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。

■作業中は

(1)　作業を開始するときは必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業者以外の人、特に子供を近づけないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。

(2)　運転中は、回転部やエンジン・マフラー等の高温部など危険な箇所には、手や体を触れないでください。火傷、傷害事故の原因となり大変危険です。

(3)　本機の夜間運転は禁止されていますので絶対に行なわないでください。

(4)　回転部に木片や石、ビニールひもなど異物を混入させないでください。刃の破損など思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(5)　稲藁など可燃物を切断する場合は、くわえタバコなど火気厳禁です。藁くずや枯れ葉などに引火し、火災を起こす恐れがあります。

(6)　運転または作業中は絶対に排出口に近づかないでください。飛散物などにより思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(7)　運転中に異音が発生したり、異常を感じた場合には、速やかにエンジンを停止し、完全に機械が止まったことを確認後、各部の点検を行ない原因を取り除いてください。そのまま作業を続けると、思わぬ事故が発生する恐れがあります。　また、エンジン停止直後に点検を行ないますと、回転部が完全に停止していない可能性がありますので、傷害事故の原因となり大変危険です。

(8)　送り込みロール部に切断材料が詰まり、送り込まなくなった場合は、エンジンを停止し、手前に引き出してください。無理に押し込むとロールに巻き込まれるなどして大変危険です。

(9) 切断物の詰まりにより回転しなくなったら、エンジンを確実に停止した後、切断物を除去し再始動してください。これを怠ると突然に回転刃が回り出し大変危険です。

■点検整備は

(1) 点検・整備には適正な工具を使用しましょう。工具が適正でないとボルトなどの締付け力が不足して思わぬ事故が発生してしまうほか、重大な事故につながる恐れがあります。

(2) 点検・整備をするときは、明るく平坦な広い場所で行なってください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) 機械の掃除・点検整備をするときは、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを切って駐車ブレーキがかかっているのを確認した後、行なってください。思わぬ事故をまねく恐れがあります。

(4)　エンジンを切ってすぐに、点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が完全に冷えてから行なってください。怠ると、火傷などの原因となります。

(5)　清掃・点検整備で回転刃、固定刃を取り扱うときは、ケガしないように革手袋等で安全を確認してください。

(6)　切断長変更のため、チェンジギヤーを交換するときは、必ずエンジンを停止して行なってください。
　クラッチレバー等への接触により動力が伝わり思わぬ事故の原因となります。

(7)　点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

(8)　機械の改造は絶対にしないでください。機械の故障や事故の原因になり大変危険です。

■保管・格納は

(1)　エンジンを停止し、機体に付着したドロやゴミ等をきれいに取り除いてください。特にマフラーなどエンジン周辺のゴミは火災の原因となります。必ず取り除いてください。

(2)　子供などが容易にさわれないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。

(3)　長期格納するときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

保証とサービス

■新車の保証

　この製品には、㈱アテックス保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

■サービスネット

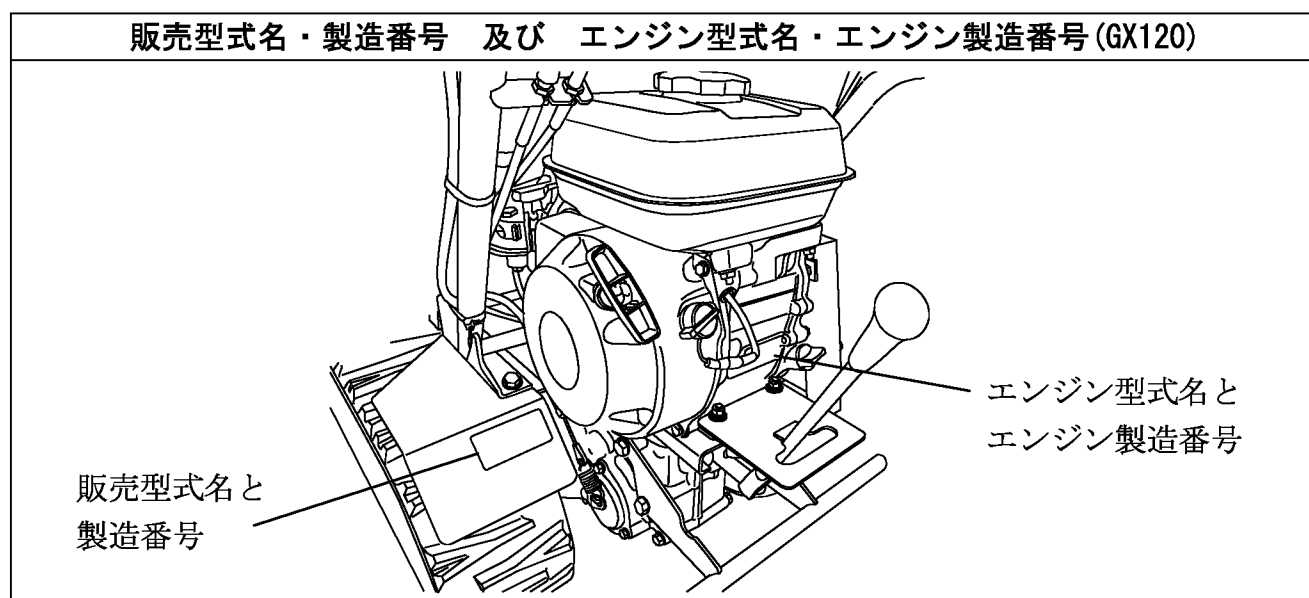
　ご使用中の故障やご不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。

　その際、

　①　販売型式名と製造番号

　②　エンジン型式名とエンジン製造番号

　を併せてご連絡ください。

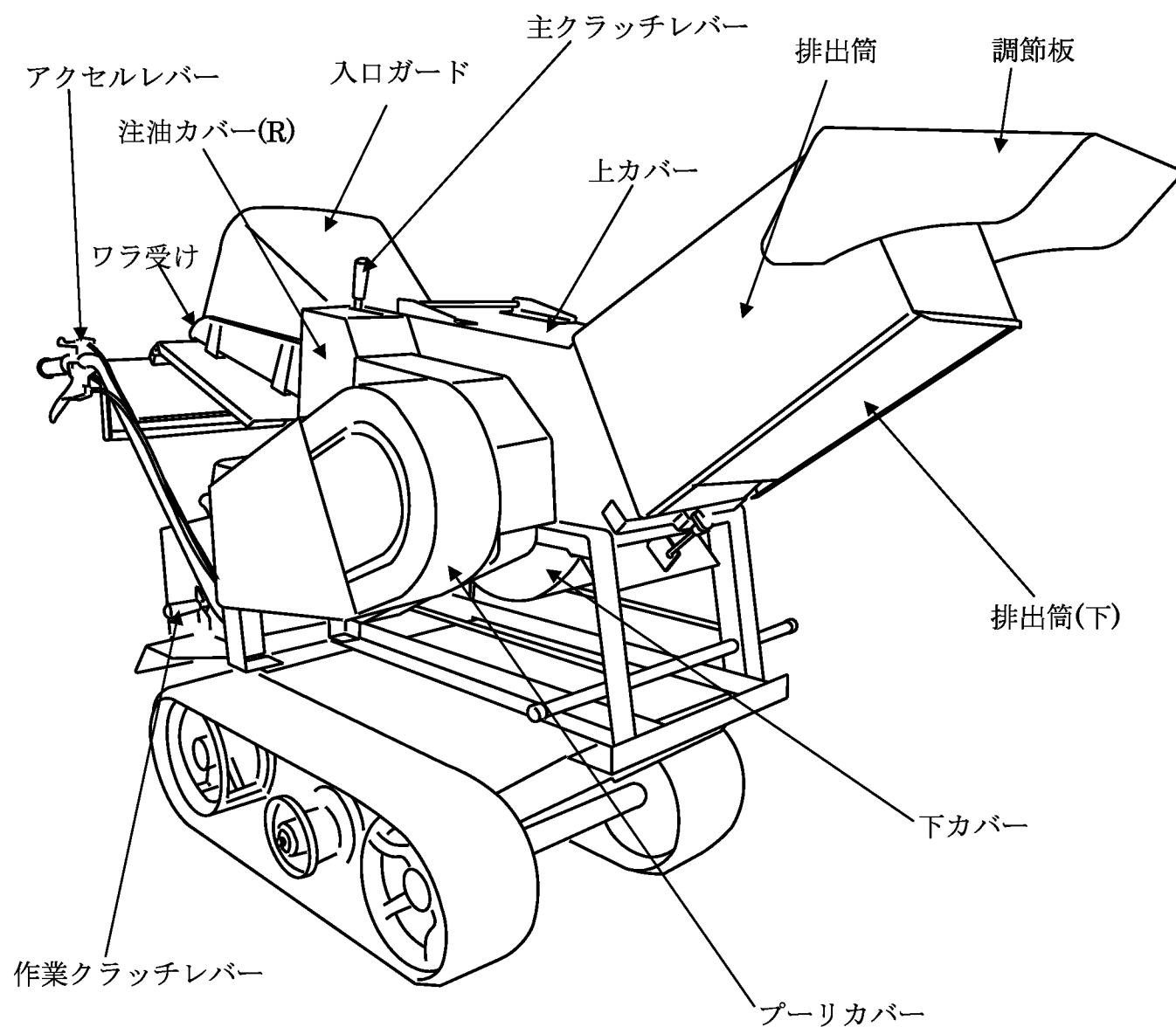
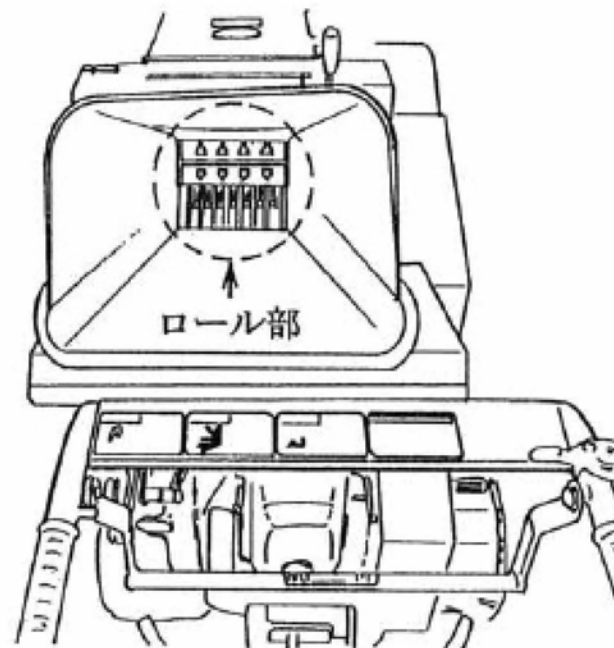
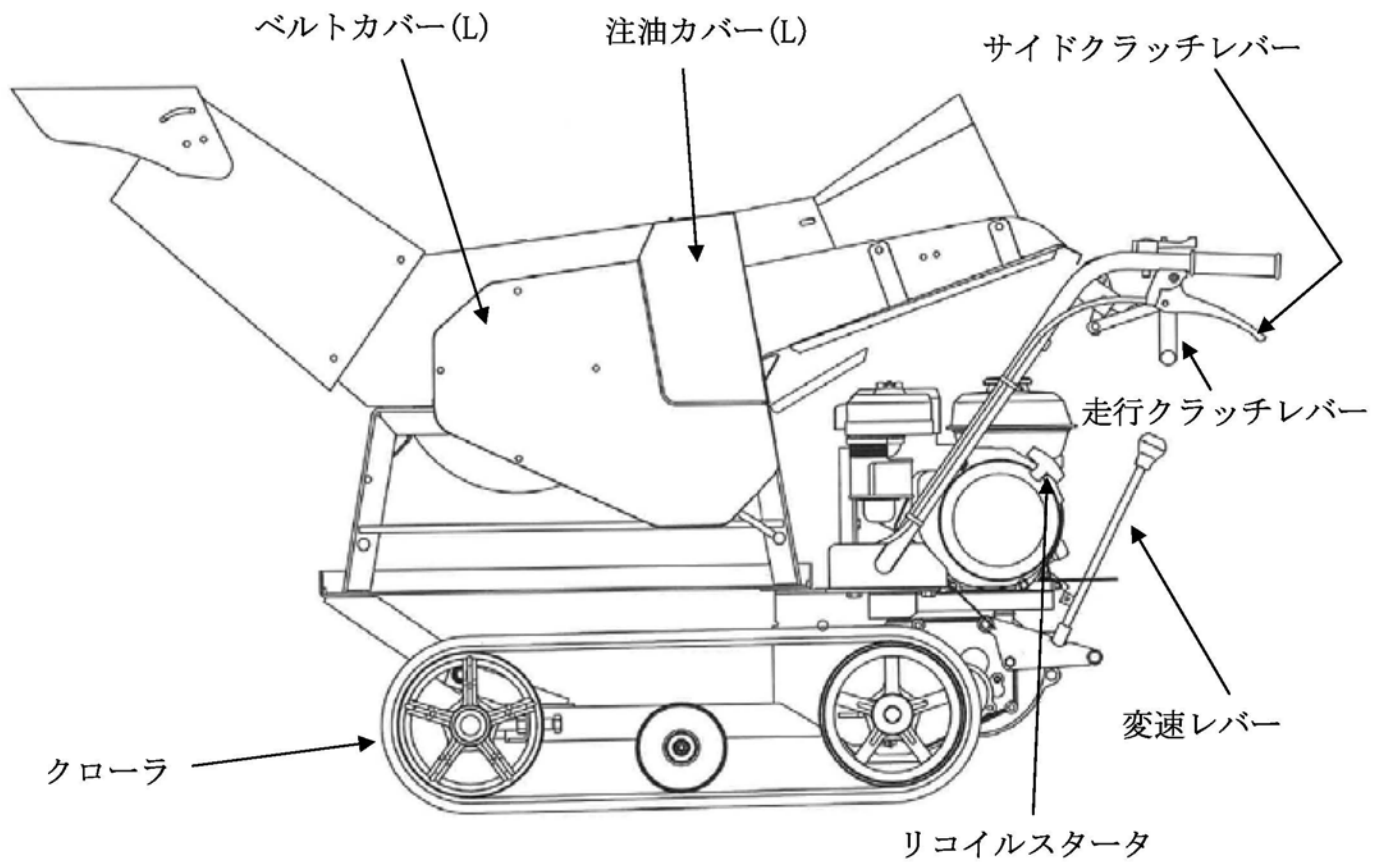
販売型式名・製造番号　及び　エンジン型式名・エンジン製造番号(GX120)

■補修用部品供給年限について

**　この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年といたします。ただし、供給年限であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。**

**　補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。**

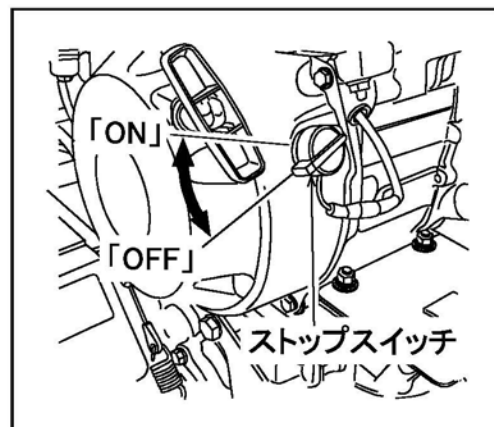
各部の名称とはたらき

各部の名称

ベルトカバー(L)
注油カバー(L)
サイドクラッチレバー
走行クラッチレバー
変速レバー
クローラ
リコイルスタータ

操作レバーおよびスイッチの名称とはたらき

■ストップスイッチ

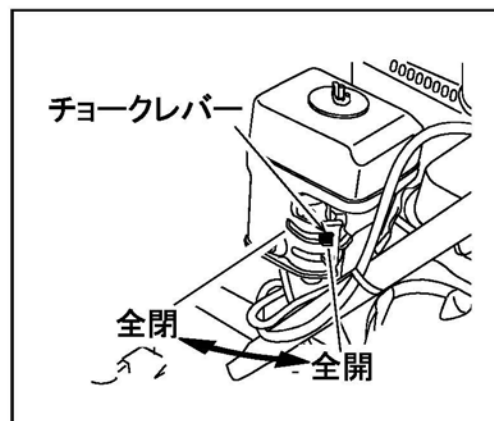
エンジン始動時は、「ON」位置にします。
「OFF」位置にすればエンジンが停止します。

※エンジンの始動・停止のしかたについては本書 23～25 ページを参照してください。

■チョークレバー

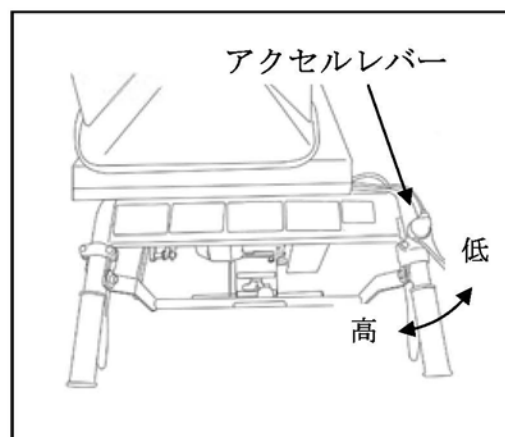
低温時等にエンジンの始動を容易にする為に使用します。

● 寒い時やエンジンが冷えている時は全閉にします。

● 暖かい時や運転停止直後再始動する場合は全開もしくは半開にします。

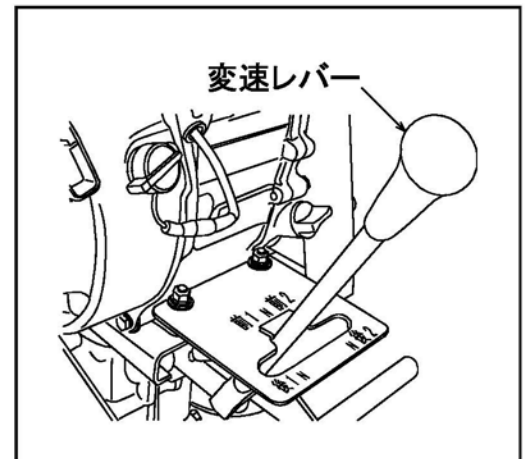
エンジン始動後は、必ずチョークレバーを元の位置まで戻してください。

■アクセルレバー

エンジンの回転数を調節するレバーです。

低………エンジン回転数がアイドリング回転まで戻ります。
高………エンジン回転数が最高回転まで上がりエンジン回転数が最高の時に最大の馬力(パワー)を発生します。状況に応じて調節してください。

■変速レバー

・変速レバーの位置

後１	後進１速
前１	前進１速
前２	前進２速
後２	後進２速
N	ニュートラル

前進２段・後進２段の変速ができます。
変速は、走行クラッチレバーを「切」位置に戻し、車両を完全に停止させてから行なってください。

重要

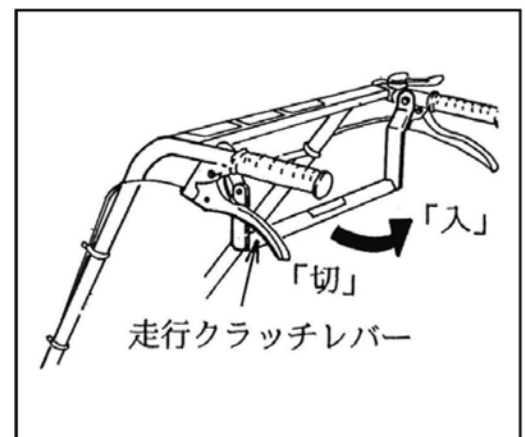
●変速レバーの無理な操作はトランスミッション内部破損の原因となります。絶対にしないでください。

●走行中の変速レバー操作は絶対にしないでください。ギヤが破損し、決定的なダメージを受けてしまいます。

●変速レバーがスムーズに切換できない場合は、走行クラッチレバーの「入」・「切」操作を数回繰り返してから、再度変速レバーを操作してください。

■走行クラッチレバー

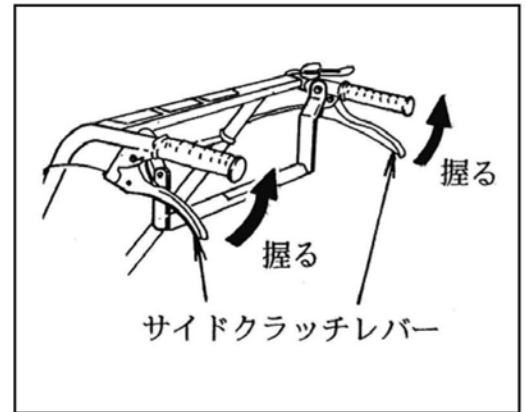
走行クラッチレバーを手前に引き上げるとエンジンの回転がベルトによりトランスミッションへ伝達されます。路面状態に合った変速位置を選んで走行してください。

また、走行クラッチレバーを「切」位置にすると駐車ブレーキが効きます。

⚠注意 **●駐車時、停車時には必ず走行クラッチレバーを「切」位置にし、歯止め（車止め）をしてください。これを怠ると車両が自然に動き出し大変危険です。**

■サイドクラッチレバー

旋回側のサイドクラッチレバーを握ると、旋回します。この時、レバーの握り加減で旋回半径が変わります。

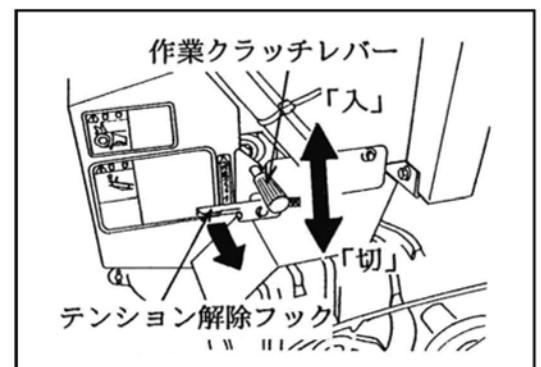
旋回は十分に速度を落として行なってください。

また、両方のサイドクラッチレバーを同時にいっぱい握ると車両が停止します。レバーを離せば走行が再開されます。

重要
- **サイドクラッチは、ツメクラッチ方式を採用しています。サイドクラッチレバーを少し引くと動力が切られ、さらに引くとツメが噛み合いクローラの回転が止まります。レバーを少し引くと大きく旋回し、さらに引くとツメが噛み合い急旋回します。下り坂では、レバーの引き加減によりクローラが流されレバーの引き方向とは逆の方向に旋回することがあります。状況に合ったレバー操作をしましょう。**
- **両方のサイドクラッチレバーを握り車両を停止した時は、必ず走行クラッチレバーを「切」にした後サイドクラッチレバーを離してください。**

⚠警告
- **坂道は、低速走行が基本です。高速走行でサイドクラッチレバーを操作すると引き加減により急旋回し転倒・転落の恐れがあり大変危険です。**

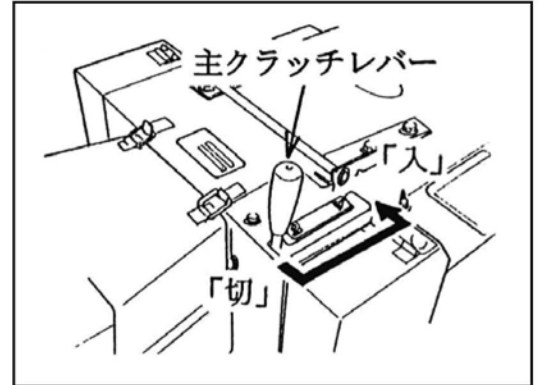
■作業クラッチレバー

テンション解除フックを下方に押すと、作業クラッチレバーのロックが解除され、クラッチが入り、回転刃(フライホイル)が回ります。

作業クラッチレバーを下方に押し下げると、テンション解除フックにて作業クラッチレバーがロックされ動力の伝達がストップします。

⚠警告
- **運転中または回転中に回転部(ベルト・チェン・プーリ)に触れると、ケガをします。触れないで下さい。**

■主クラッチレバー

作業クラッチレバーが「入」の状態で主クラッチレバーを「入」に入れると、ロール部が回転します。クラッチを入れる前に、必ず安全を確認してからクラッチを入れてください。

⚠警告

●飛散物又は吐出物が当たり、ケガをすることがあります。運転中又は回転中に、排出筒をのぞいたり吐出方向に近寄ったりしないでください。

⚠危険

●各部の安全カバーを外したままの作業は絶対に行なわないでください。カバーがない状態で作業を行なうと、巻き込みなどの危険があります。また、クラッチを入れたまま、カバーを外さないでください。
●主クラッチレバーを入れる前に、ワラ受け部、ロール部に石、木片、工具類などの異物が無いか確認してください。確認は、必ずエンジンを停止させてから行なってください。巻き込みにより切断などの危険があります。
●必ず周囲の安全を確認し、クラッチを入れてください。
●運転中又は回転中、ロール部に手を入れるとローラに接触し引き込まれ、ケガをすることがあります。なかに手をいれないでください。
●運転中又は回転中、ロール付近の付着物を手でとったり、詰まった場合に無理に押し込む事は絶対にしないでください。ロール部に手を挟まれる危険があります。クラッチを切り、必ずエンジンを停止させたのちに、詰まったワラ等を取り除いてください。

作業の準備

使用前の点検について

⚠警告 **●必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバー・主クラッチレバーや作業クラッチレバーを「切」にしてから行なってください。怠ると、手や衣服が巻き込まれたりして大変危険です。**

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておく事が大切です。始業点検は、使用する前には毎回欠かさず行なってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1) 前日、異常の有った箇所

(2) 車体を確認して
- エンジンオイルの量、および汚れ ……… 37ページ
- 燃料ろ過カップの水、沈殿物の点検 ……… 37ページ
- ギヤボックスのオイル量、および汚れ ……… 36ページ
- Vベルトの張り具合、損傷 ……… 38、42ページ
- クローラの張り具合、損傷 ……… 41ページ
- エアクリーナーの清掃 ……… エンジン取扱説明書
- 燃料は十分か、燃料キャップの締め付け
- 変速レバーの作動 ……… 19ページ
- 走行クラッチレバー、作業クラッチレバーの作動 ……… 19、20～21ページ
- 車体各部の損傷、およびボルトやナットの緩み
- ブレーキの作動 ……… 39～40ページ

(3) エンジンを始動して
- アクセルレバー作動
- 排気ガスの色、異常音

(4) 徐行しながら
- 走行クラッチレバーの作動 ……… 19ページ
- サイドクラッチレバーの重さ、戻り ……… 20ページ
- 走行部の異常音

作業のしかた

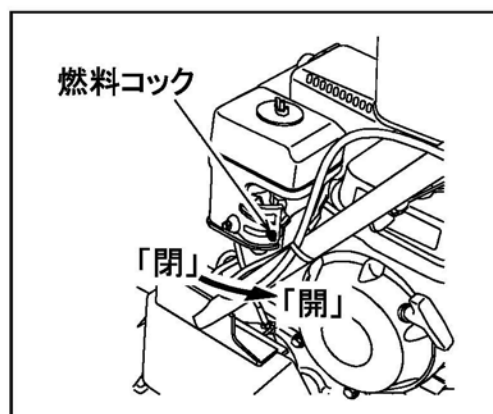
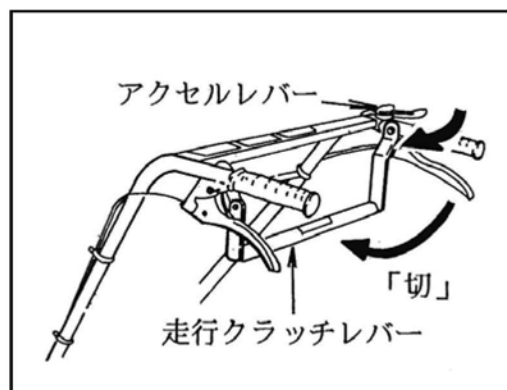
エンジンの始動と停止のしかた

⚠警告 ●急発進することがあり大変危険です。エンジンを始動するときはクラッチレバーの位置を「切」にし、周囲の安全を確認してから行なってください。

⚠警告 ●排気ガスによる中毒の恐れがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。

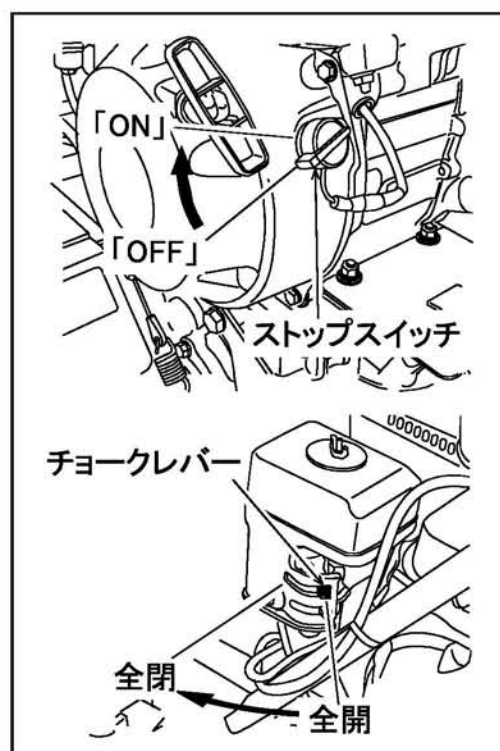
■エンジンの始動

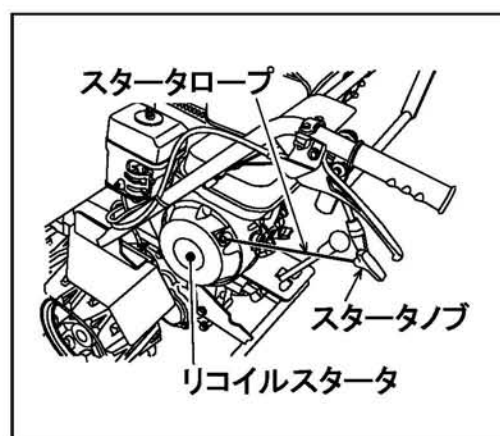
⚠注意 ●暖機運転中は、必ず走行クラッチレバーを切っておいてください。
これを怠ると、車両が自然に動き出し大変危険です。

(1)　燃料タンクに燃料が入っているか確認し、燃料コックを開けます。

(2)　走行クラッチレバーを「切」位置にします。
(3)　アクセルレバーを中回転程度に上げます。

(4)　ストップスイッチを「ON」にします。

(5)　チョークレバー操作を行ないます。

●低温時やエンジンが冷えている場合は、チョークレバーを全閉にします。

●暖かい時や運転停止直後再始動する場合は全開もしくは半開にします。

(6)　リコイルスタータを引いてエンジンを始動します。

(7)　エンジン始動後、チョークレバーを徐々に全開に戻します。

重要 ●チョークレバーを操作した場合は、エンジンの調子をみながら徐々に開き、最後には必ず全開にしてください。寒い時またはエンジンの冷えている時にチョークレバーを急に開くとエンジンが停止することがあります。

●リコイルスタータは無理にスタータロープの長さいっぱいまで引ききらないでください。また、引いたスタータノブはその位置で手放さず、ゆっくりとスムーズに元の位置に戻してください。

●エンジンの暖機運転をしないで、走行・作業を行なうと、エンジンの寿命が短くなります。２～３分程度の暖機運転をしてください。

■エンジンの停止

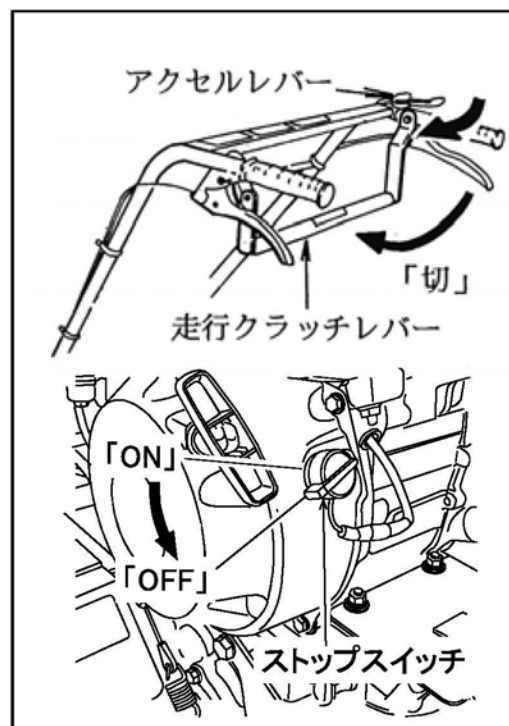
> **⚠警告** ●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまではさわらないでください。

> **⚠注意** ●ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

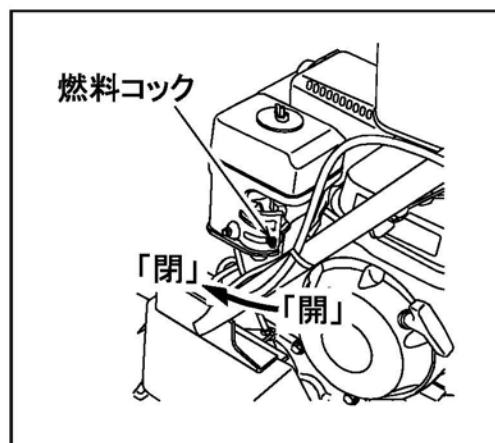
(1)　走行クラッチレバーを「切」位置にします。

(2)　アクセルレバーを「低」位置にし、しばらく低速運転をします。

(3)　ストップスイッチを「ＯＦＦ」位置にし、エンジンを停止します。

(4)　燃料コックを閉じてください。

重要 ●万一、故障しエンジンが停止しない場合は、燃料コックを閉じて燃料がなくなるまで放置してください。

●エンジンを高回転のまま停止しないでください。

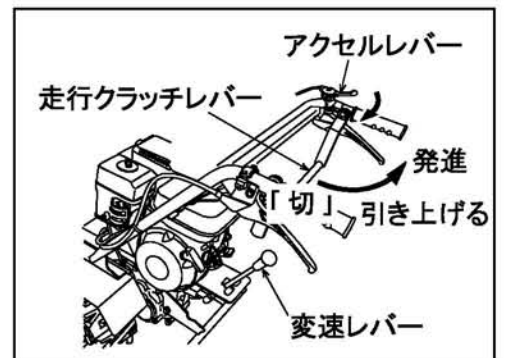
●運転後は、アイドリング回転で１～２分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。特に長時間運転後は、アイドリング回転で３～５分間程、無負荷運転を行なってからエンジンを停止してください。

走行のしかた

■発進のしかた

⚠危険 ●転落・転倒する恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。

⚠危険 ●障害物に、はさまれる恐れがあります。進行方向の安全を常に確認してください。

⚠警告 ●運転中、または回転中に回転部（ベルト・チェン・プーリ）に触れるとケガをします。触れないでください。

(1)　走行クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認し、変速レバーを希望する変速位置に入れます。
(2)　アクセルレバーを操作しエンジン回転を少し上げます。
(3)　走行クラッチレバーを手前に引き上げると発進します。
(4)　アクセルレバーを操作して走行速度を調整します。

重要 ●エンジン始動直後・路面状態により、アイドリングでは、エンジンが止り発進できないことがあります。発進時には、状況に応じてエンジン回転を上げてください。

■旋回のしかた

旋回のしかたについては、20・28～30ページをご参照ください。

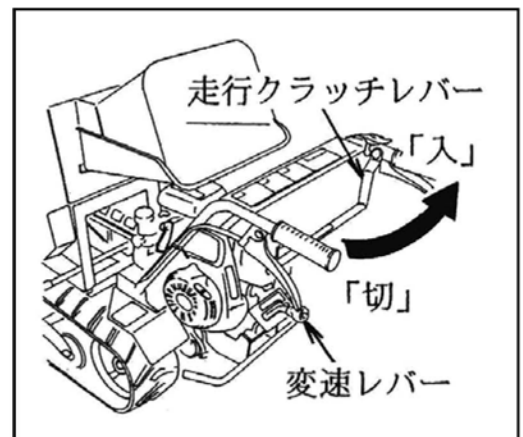
■停車・駐車

⚠警告

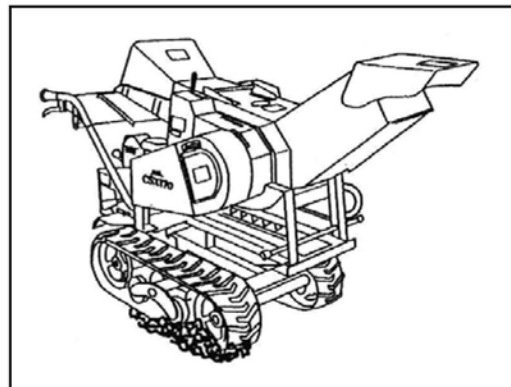
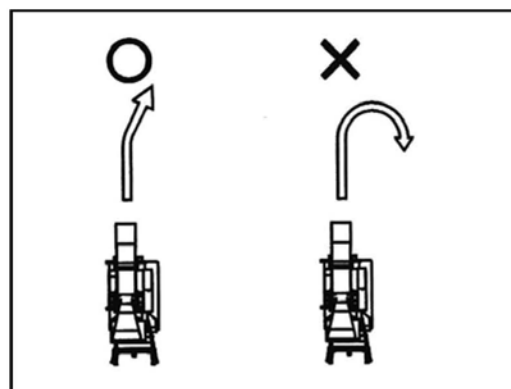
- **駐車・停車をするときは、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。**
- **車両から離れるときは、走行クラッチレバーを「切」にし、エンジンを停止し、歯止め（車止め）をしてください。また止める所は、広い平坦な地面の硬い場所を選んでください。これを怠ると、車両が自然に動きだして大変危険です。**
- **緊急時以外は、左右両方のサイドクラッチレバーを同時に握る操作による急停止（20ページ参照）をしないでください。車体やギヤボックスに負担がかかり、車両の寿命に影響するばかりでなく、急な坂道では転倒の恐れがあります。**
- **車両を草やワラなど可燃物の近くや上に停車しないでください。排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原因となる恐れがあります。**

(1)　走行クラッチレバーを「切」位置にします。

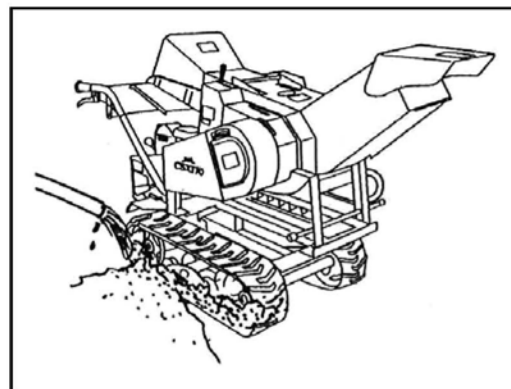
(2)　アクセルレバーを「低」位置にし、エンジン回転を下げます。

(3)　エンジンを停止させてください。
(25ページ参照)

走行時の注意

■ゴムクローラへの注意

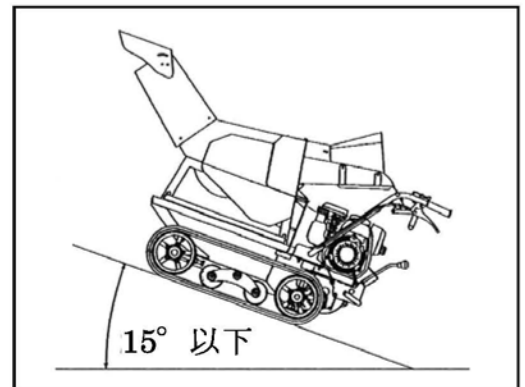
重要 ●鉄道の路線敷のような、小石がたくさんある場所では、その場旋回のような小回りターンをすると、スプロケットとクローラの間に石が入り、クローラ等が損傷する恐れがあります。

重要 ●砂利道のような、小石がたくさんある場所では、急ターンや半径の小さい蛇行運転は避け、直進や小さい角度の方向転換の運転をするよう、注意してください。

重要 ●湿田等の軟弱地で走行した後、スプロケットの中に泥やワラ等の異物が残っている場合には、水洗い等で取り除いてください。

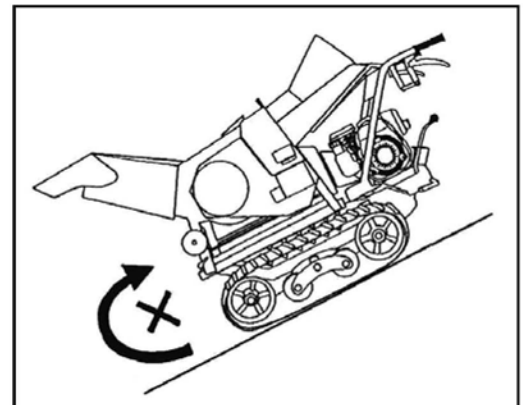
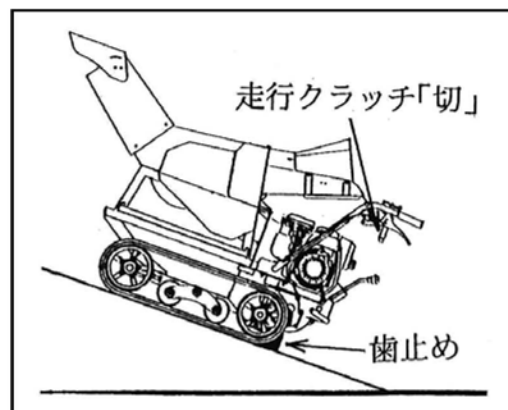
●泥等が乾いて固まった場合には、走行中の土や泥がスプロケットから抜けなくなり、クローラ損傷の恐れがあります。

●使用後は、機械をきれいに掃除してください。

■坂道での運転

⚠危険 ●坂道走行中にエンジンが停止した場合には、素早く走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。
●坂道でエンジン停止中に走行クラッチレバーを「入」にすると、駐車ブレーキが解除されて車両が自然に動きだし、大変危険です。

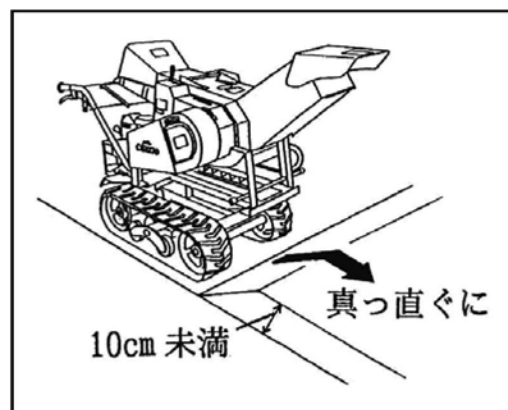
⚠注意 ●下り坂での旋回は、平地での旋回時よりも旋回半径が大きくなりますので十分注意してください。

(1)　本機は１５°以下の坂道で使用してください。

⚠注意 ●坂道では、必ず１速走行してください

(2)　坂道では、必ず１速または、Ｒ１速で走行し、
Ｕターンおよび変速は避けてください。

(3)　坂道で駐車する場合は、走行クラッチレバーを「切」位置にし、必ず歯止め（車止め）をしてください。

重要 ●転倒の恐れがありますので、特に坂道では急な旋回をしないでください。
●下り坂で停止する場合は、スロットルレバーを「低」位置に戻し、走行クラッチレバーを「切」位置にし、歯止め（車止め）を確実にかけてください。
●坂道の状況に応じた安全なスピードで走行してください。スピードを出しすぎると、思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■その他走行時の注意

⚠注意 ●チェンジ操作は、走行クラッチを「切」にして行なってください。

凹凸はできるだけ避けて、車両にショックがかからないようにしてください。やむをえず凹凸越えをする場合は、必ず低速にし、真っ直ぐに乗り越えてください。

⚠注意 ●畦越えや、圃場の出入り等傾斜のきつい所（15°以上）や、段差の高い所（10㎝以上）を走行する時は、必ずアユミ板を使用してください。

カッター作業のしかた

■カッター作業のしかた

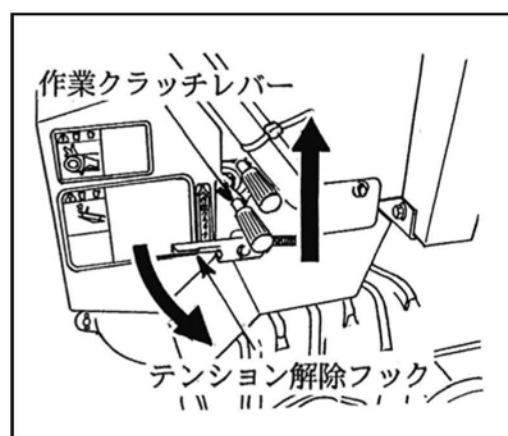
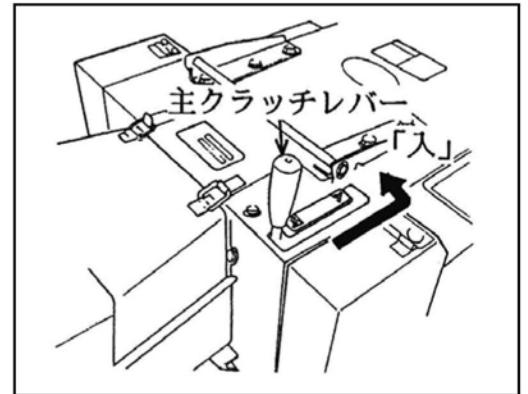
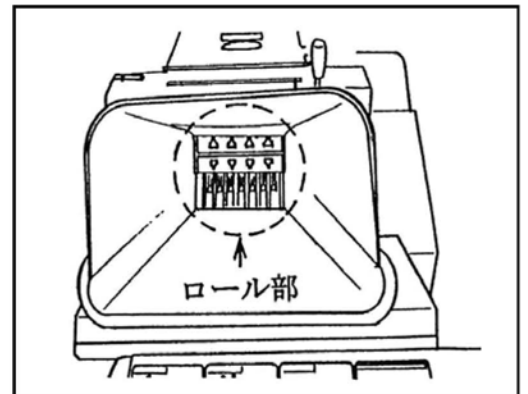
⚠警告
●飛散物又は吐出物が当たり、ケガをすることがあります。運転中又は回転中に、排出筒をのぞいたり吐出方向に近寄ったりしないでください。
●運転中又は回転中に上カバーを開けると回転物に接触しケガをすることがあります。上カバーを開けないでください。

⚠危険
●各部の安全カバーを外したままの作業は絶対に行なわないでください。カバーがない状態で作業を行なうと、巻き込み等の危険があります。また、クラッチを入れたままカバーを外さないでください。
●作業クラッチのロックを解除する前、主クラッチレバーを入れる前に、回転刃・ロール部に石、木片、工具類等の異物がないか確認してください。確認は必ずエンジンを停止させてから行なってください。巻き込みによる切断等の危険があります。
●必ず周囲の安全を確認して、クラッチを入れてください。
●運転中にロール付近の付着物を手で取ったり、詰まった場合に無理に押し込むことは絶対にしないでください。ロール部に手を挟まれたり回転刃でケガをするおそれがあり、大変危険です。
●運転中又は回転中、排出筒に手を入れると回転物に接触し、ケガをすることがあります。排出筒に手を入れないでください。

重要 ●運転操作の前に下記の事項を確認してください。
- ・回転方向は、間違いないか。
- ・各部のカバー類は、ボルトやネジの緩み無く確実にしまっているか。

●運転作業の前に、カッター部への注油を行なってください。（ P.38 参照 ）

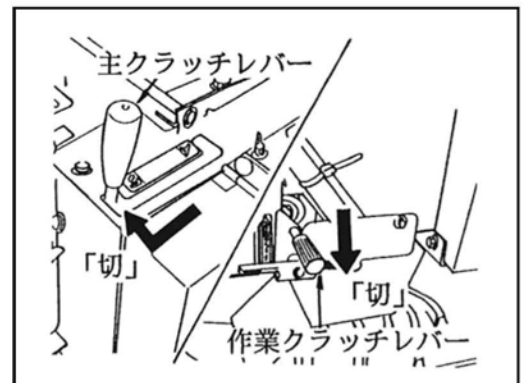
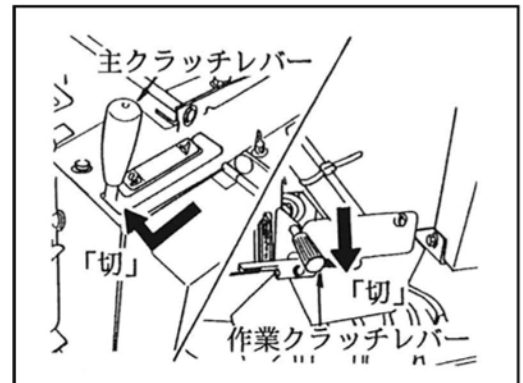
(1) テンション解除フックを下方に押し、作業クラッチレバーのロックを解除すると回転刃が回転します。

 ●エンジンが低回転の時、急激にロック解除するとエンストをおこす場合があります。エンジンの回転数を上げてロック解除をしてください。

(2) 主クラッチを入れると、ロール部が回転します。
できるだけ低速で運転し、各部に異常・異音がないのを十分に確認した後、回転を上げてください。

(3) ロール部に切断物を入れてください。
切断物は一度に多量入れないで、適量ずつ平均して送り込んでください。

●切断物に、石・木片・ビニールひも・工具類等が混入しないように注意してください。機械の損傷につながる恐れがあります。

危険

●運転中又は回転中、なかに手を入れるとローラに接触し引き込まれ、ケガをすることがあります。なかに手を入れないでください。

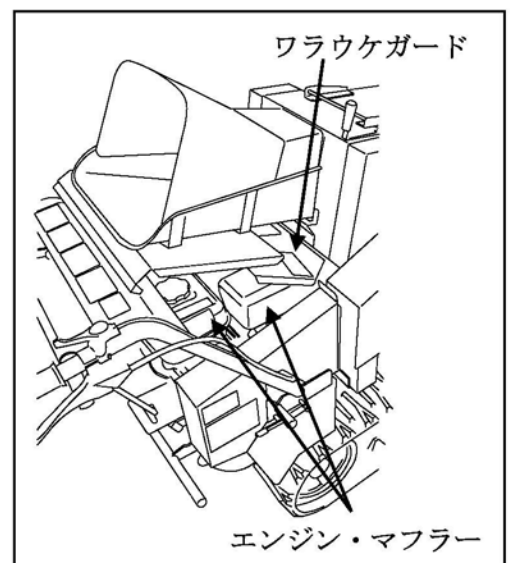
(4) 回転が停止した場合は、速やかにエンジンを停止し主クラッチレバーを切り、作業クラッチレバーをロックするまで下方に押し下げた後、ホイルカバー内の切断物を取り除いてから再運転してください。

●送り込みに無理が生じ、送り込まれなくなったときは切断材料を手前に引き出して再び送り込んでください。無理に送り込むことは、非常に危険ですから絶対にしないでください。

(5) 作業を終了する場合は、右図のように主クラッチレバーを切った後、作業クラッチレバーをロックするまで下方に押し下げます。
エンジンを低回転でしばらく運転した後、停止させてください。

危険 **●引火のおそれがあります。エンジンに付着したゴミ、藁等は、取り除いてください。**

（６）作業終了後は、ワラウケガードやエンジン等の過熱部周辺のゴミ、藁等を取り除いてください。

重要 **●過熱部周辺のゴミ、藁等、燃えやすいものを放置すると火災の原因となる恐れがあります。**

（７）燃料補給は、ワラウケガードやエンジン等の過熱部周辺のゴミ、藁等を取り除いてから行なってください。

重要 **●過熱部周辺のゴミ、藁等、燃えやすいものを放置すると火災の原因となる恐れがあります。**

点検・整備

増し締め…作業前には、各部のボルト・ナット等の緩みがないか確認し、緩み箇所は締めなおしてください。

⚠警告 ●給油及び点検をするときは安全を確認して行なってください。
①車両を平坦な広い場所に置く。
②走行クラッチレバーを「切」にする。
③エンジンを止める。
※ 安全を確認せずに点検整備をすると、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあります。

本機を安全に使用するために、また事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行なってください。

〈定期点検整備箇所一覧表〉　○点検・調整　◎補給　●交換

点検箇所		項目	点検時期（目安）				参照ページ
			始業前	50h毎	100h毎	200h毎	
本体・走行部	ギヤボックス	油量			◎	●	36
	ブレーキシュー	磨耗		○		●	—
	Vベルト	伸び・亀裂	○				38
	各部ワイヤ	伸び	○				38, 39
	クローラ	伸び・亀裂	○				41
	転輪（各ローラ）	グリース			◎		35
	各支点部	油・グリース	○				—
カッタ部	Vベルト	伸び・亀裂	○				42
	各支点部	油・グリース	○				38
エンジン部	エンジンオイル	油量・汚れ	○		●		37
	エアクリーナ	汚れ	○			●	—
	点火プラグ	汚れ・磨耗		○			—
	燃料フィルタ	水だまり・目詰まり			○		—
エンジン部関係詳細については「エンジン取扱説明書」を御参照ください。							

■給油

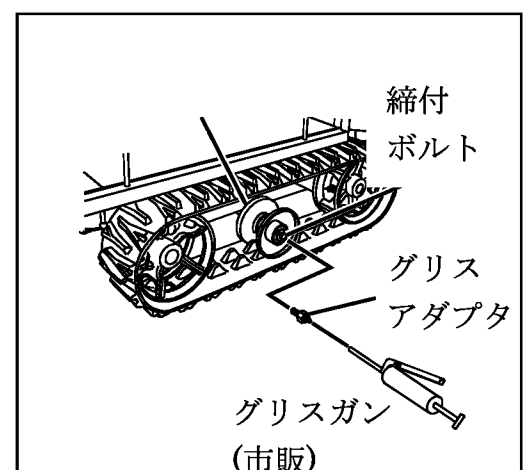
〈給油箇所一覧表〉

給油箇所		油の種類	給油量	参照ページ
本体・走行部	ギヤボックス	ギヤオイル GL4-80W-90(JOMO)	1.4 ﾘｯﾄﾙ	36
	トラックローラ アイドルローラ	エトライトNo.1(協同油脂)	適　量	35
	注油指示部 黄色マーカー部・摺動部	ギヤオイルまたは グリース;エクセライトNo.2(協同油脂)	適　量	—
エンジン部	エンジンオイル	ガソリンエンジンオイル GP-S 10W-30(JOMO)	0.55 ﾘｯﾄﾙ	37
	燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン	2.5 ﾘｯﾄﾙ	—
詳細は「エンジン取扱説明書」を参照してください。				

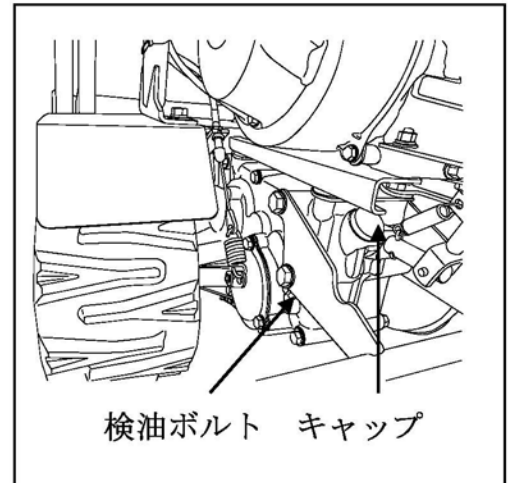
●転輪のグリスアップは、ぬかるみ等で使用した後には必ず給脂してください。
●機体にとって潤滑油は、人の血液にも相当する大切なものです。給油をおろそかにすると、機械が円滑に動作しないばかりか、故障の原因となり、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給、または交換してください。
●給油作業は、ゴミ・水等が入らないよう十分注意して行なってください。
●年に１回はお求めのお買いあげ先にて点検整備を受けてください。

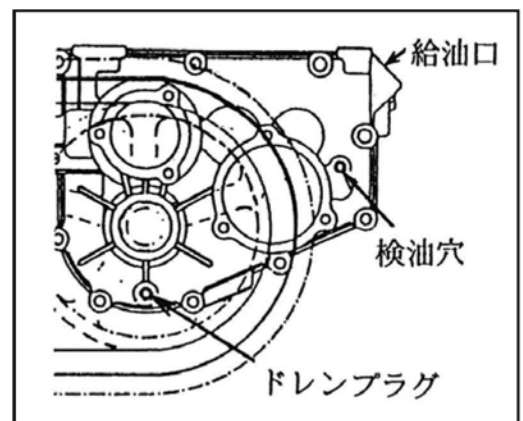
■転輪の注油箇所

●トラックローラへの補給

締付けボルトを取外し、付属品のグリスアダプタを組付けて、軸のシールリップまたは、防塵カバー裏面からグリースが出てくるまで市販のグリスガンにて注入してください。

■ギヤボックスへのオイルの給油・交換

●給油

　機体を水平にして給油します。
給油口のキャップを外し、ギヤボックス側面にある検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで給油してください。給油が終了したら、検油ボルトを元のように締め込み、給油口のキャップを取り付けてください。

●交換

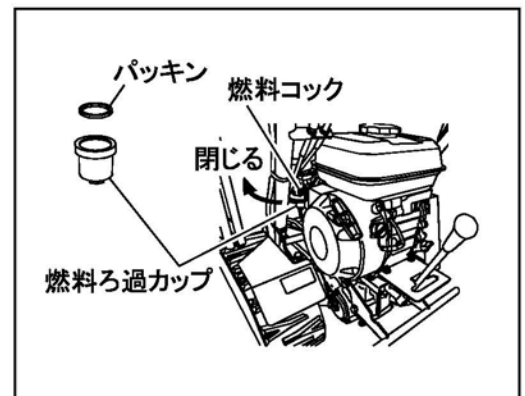
(1)　機体を水平にして作業を始めます。
(2)　給油口のキャップとギヤボックス下部のドレンプラグを外し、オイルを廃油受皿に排出します。
(3)　オイルをすべて出しきったら、オイル排出口、およびドレンプラグの油分を完全に抜き取り、ドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。
(4)　検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで給油口から給油します。
(5)　給油が終了したら、検油ボルトを元のように締め込み、給油口のキャップを取り付けてください。

重要
●廃油は廃油受皿等に取り、たれ流したりしないでください。公害のもととなります。
●廃油受皿に排出したオイル内に鉄粉等が混入している場合は、ギヤの磨耗など、ギヤボックス破損の前兆であり、ギヤボックスの分解チェックを要します。お買あげ先にご相談ください。
●ギヤボックスのオイルは、路面状態など走行条件により給油口からにじみ出たり、キャップのエア抜き穴から出る場合がありますので、頻繁に点検し、補給してください。

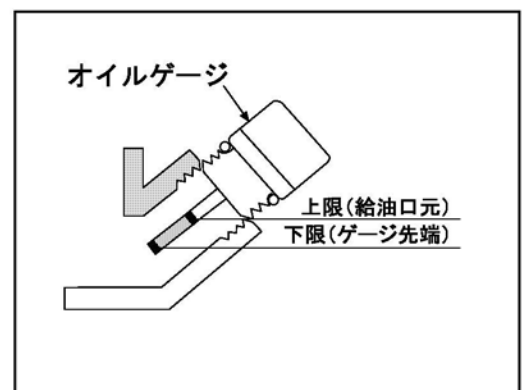
■点検と清掃

⚠危険 ●引火のおそれがあります。エンジンに火を近づけないでください。

⚠警告 ●火気厳禁。火災や爆発により、死傷するおそれがあるので、
・給油時にはエンジンを停止すること。・給油口に火を近づけないこと。
●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまでは、さわらないでください。

(1)　燃料……………………………自動車用無鉛レギュラーガソリン
●燃料タンク内に水・ゴミ等が入らないよう注意してください。
●燃料キャップが確実に締まっているか確認してください。

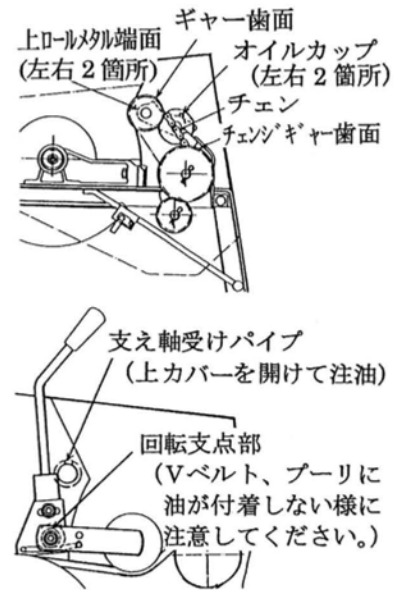
(2)　燃料ろ過カップの点検と清掃
●燃料中に含まれる水・ゴミ等が燃料ろ過カップ内に沈殿していないか点検します。
●水・ゴミ等がたまっている場合は、燃料コックを閉じて燃料ろ過カップを外し、燃料ろ過カップ内部をガソリンで洗浄してください。
●締付けの際は、燃料もれのないよう十分注意してください。

重要 **●燃料ろ過カップや気化器の点検・清掃をする時は、換気の良い場所で行なってください。**

(3)　エンジンオイル
●機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。
●「下限」以下の場合は、「上限」まで補給してください。

重要 **●エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。**

※オイル交換・エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をお読みください。

■カッターへの注油

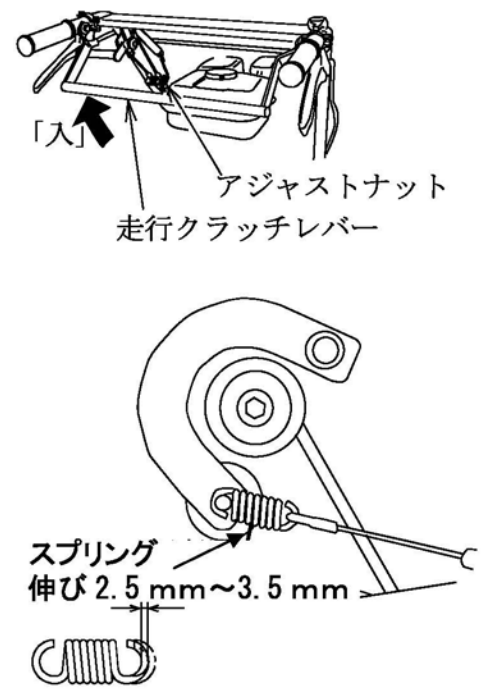
(1) 運転前には必ずチュウユカバーをあけて、右図の箇所へ注油してください。

重要 **●ギヤー及びチェンの注油はもちろん、他の回転部及び摺動部への注油は始業前に必ず行なってください。**

⚠警告 **●運転中又は回転中にカバーを開けると回転物に接触し、ケガをすることがあります。カバーを開けないでください。**

各部の調整

⚠警告 **●各部の点検、調整を行なう場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業をしてください。**

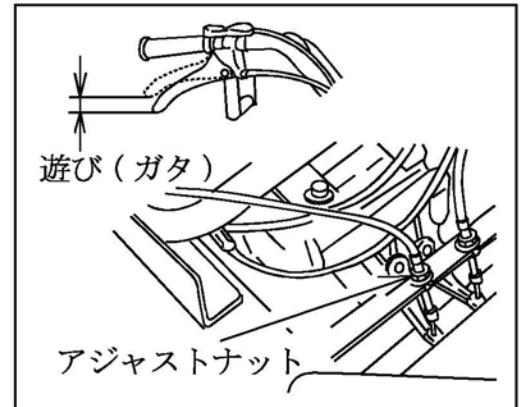
■走行クラッチの調整

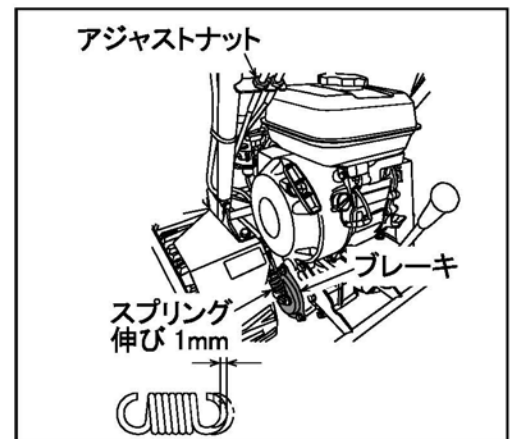
走行クラッチレバーを「入」位置にしても、ベルトがスリップして動力の伝導が不十分な時は、プーリカバーを外して、走行クラッチレバーを「入」位置の状状態でスプリングの伸びが2.5～3.5㎜になるようにアジャストナットで調整してください。調整後は、確実にアジャストナットを締め込んでください。

●走行クラッチの調整が不十分な場合、走行クラッチレバーを「入」にしてもベルトがスリップして動力の伝動が悪くなり、走行できなくなったり、坂道で暴走する恐れがあります。作業前には必ずベルトを点検してください。
●調整代がなくなったり、Vベルトの腹の部分が接触するような場合は、ベルトの交換が必要です。

■サイドクラッチの調整

サイドクラッチレバーの遊び（ガタ）や作動量が大きくなり、サイドクラッチレバーを握っても旋回しにくくなった場合には、次の要領、手順にて調整してください。

(1)　まず、ギヤーボックス内のギヤーをうまく噛みあった状態にする為、サイドクラッチレバーを操作しないで、２～３ｍほど前・後進してから停止してください。

(2)　サイドクラッチレバーの遊び（ガタ）が無くなるように、ケーブルのアジャストナットで調整します。

■ブレーキの調整

本機は走行クラッチを切ると同時にブレーキが効き始める構成となっています。ブレーキの効きが弱くなったときは、走行クラッチを「切」にした状態でスプリングの伸びが１㎜になるようにアジャストナットにて調整してください。調整後は、確実にアジャストナットを締め込んでください。

⚠注意　●ブレーキの調整が不十分な場合、走行クラッチレバーを切ってもブレーキが効かず機体が自然に動きだす（特に傾斜地）恐れがあり大変危険です。

■ブレーキの交換

⚠警告 ●ブレーキの交換は、必ずエンジンを停止し、平坦地で歯止め（車止め）をして行なってください。

ブレーキの調整をしてもブレーキの効きが悪くなった場合は、ブレーキの交換が必要です。

(1) 走行クラッチレバーを「入」位置にしケーブル（ブレーキ）のアジャストナットをいっぱい緩めます。

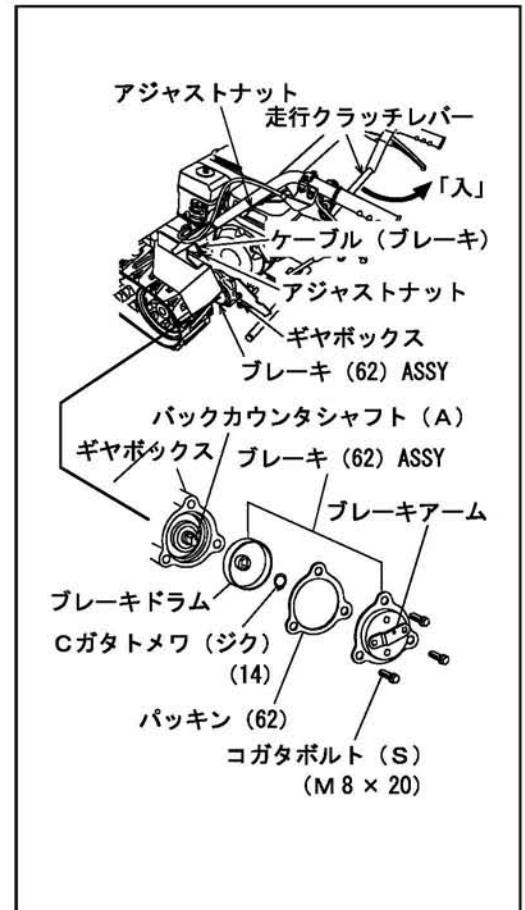
(2) コガタボルトM8×20（3本）を外し、パッキンを傷つけないようにブレーキを外します。
　さらに、Cガタトメワ（ジク）を外し、ブレーキドラムも同時に外します。

(3) 元のようにブレーキ（62）ＡＳＳＹを取付けます。パッキンが傷ついた場合は、パッキンも同時に交換してください。

(4) コガタボルトM8×20（3本）を仮付けし、ブレーキアームを手でしっかり持上げながら（芯出し）コガタボルトを締め込みます。

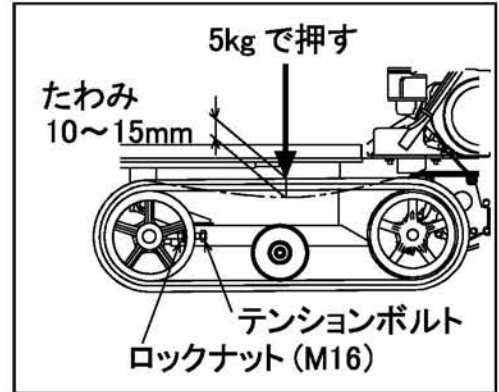
(5) ブレーキの調整をします。

部品コード；0337-110-500-1
品　　名；ブレーキ（62）ASSY（1個/台）

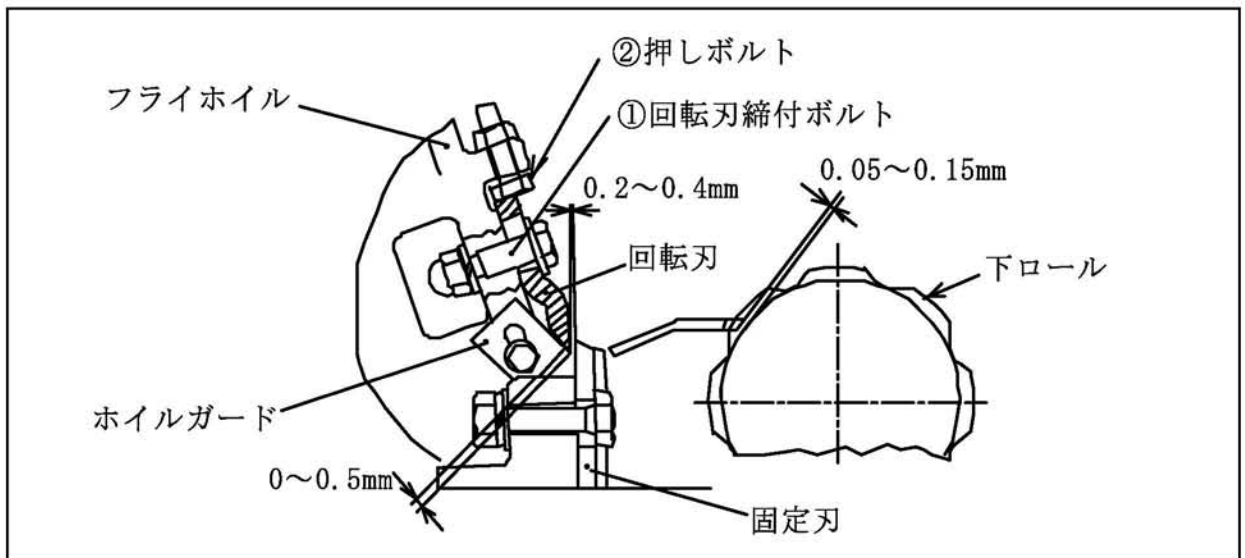
部品コード；0337-110-051-1
品　　名；パッキン（62）

■エンジンの点検・整備

エンジンの点検・整備については、「エンジン取扱説明書」に従って、必ず行なってください。

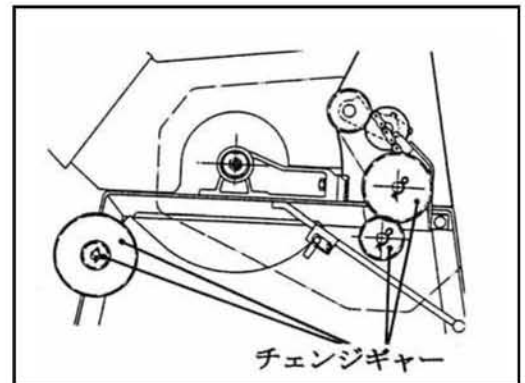
■**クローラの張り調整**

クローラが初期伸びや磨耗の為にゆるんだ場合にはクローラの張り調整を行なってください。
クローラ中央部を5kg で押したとき、10～15mm クローラがたわむようにテンションボルトで調整してください。調整後は、確実にロックナット(M16) を締め込んでください。

重要
●クローラが張り過ぎていたり緩んでいると、ホイルスプロケットの磨耗やクローラの脱輪及び切断・亀裂発生の原因となります。始業前には、クローラの張り具合を点検してください。
●クローラ表面に著しい磨耗や亀裂を発見したら早急に新しいクローラに交換してください。放置していると思わぬ事故を起こす原因となります。

■**刃の調整**

(1)上カバーを開けてください。
(2)刃の調整は、回転刃締付ボルト①を緩め、押しボルト②を前後に動かしてください。
(3)調整後は緩めた逆の順序でボルトを締め付けます。最後にもう一度締め付けを確認してください。

重要
●回転刃と固定刃の隙間間隔は、カッターにとって一番大切なことです。隙間が大きすぎると、切れ味が悪く、刃の磨耗も早くなります。
また、固定刃に近づけすぎると、刃を破損する恐れがあります。
●一般にワラ等の柔らかいものを切る場合は、回転刃と固定刃の隙間間隔を０．２～０．４mm、デントコーン等の堅いものを切るときは、０．３～０．５mm 程度とするのが刃の寿命を延ばすコツです。
●刃の調整はベルトを張った状態で行なってください。
●調整後は必ず手で回して、各部に干渉していないかどうか確認してください。

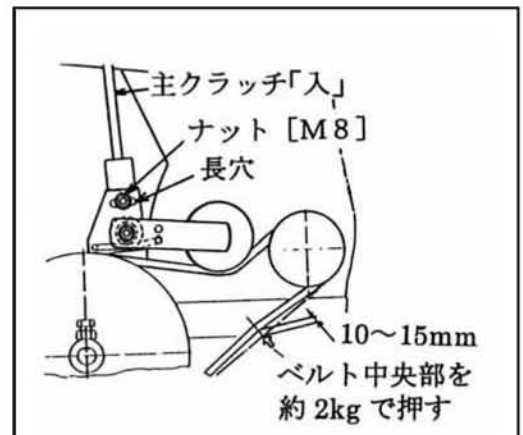
■切断寸法の調整

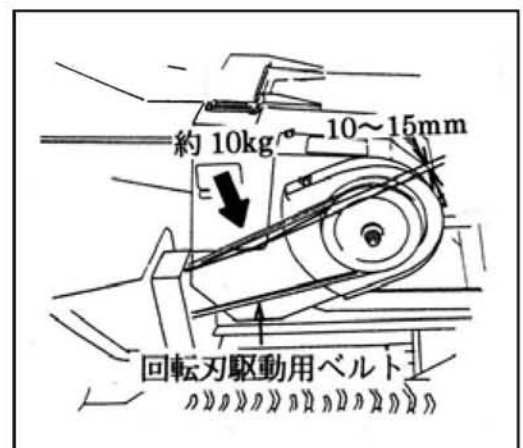
ベルトカバー（L）に貼ってある切断寸法調整表を参考にしながら、ギヤーを組み替えてください。４枚のチェンジギヤーの組み合わせで４通りの切断寸法が得られます。

チェンジギヤーの組み合わせ（数字は歯数）	４５ １４	３７ ２２	２２ ３７	１４ ４５
切断長さ　［mm］	１５	３０	８５	１５０

■ベルトテンションの調整

ベルトに緩みが出た場合は、下記要領で調整してください。

［ロール部駆動ベルト］

Vベルト中央部を約２kg の力で押して１０～１５mm たわむように長穴部のナット（M８）で調整してください。

［回転刃駆動用ベルト］

Vベルト中央部を約１０kg の力で押して１０～１５ｍｍたわむ位置でカッター本体を固定してください。

手入れと格納

⚠警告 **●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。**

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行なってください。

(1) 車両はきれいに清掃しておきましょう。特にぬかるみでの作業や悪路走行後は、きれいに洗車してください。
(2) 燃料タンク内防錆のため、燃料は満タンにしておいてください。
(3) 格納はできる限り屋内にしてください。
(4) 走行クラッチレバーを「切」位置にしておいてください。

重要 **●洗車の際は、エンジン・樹脂部品・電装品、およびマーク貼付部などには高圧水をかけないでください。特に、エンジンの点火プラグ付近には水が直接かからないようにしてください。高圧水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。**

■長期格納

長い間使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

(1) 機械はきれいに清掃しておきましょう。
(2) 不具合箇所は整備してください。
(3) エンジンオイルを新しいオイルと交換し、５分程エンジンをアイドリング回転にて運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。
(4) 各部の給油を必ず行なってください。
(5) 各部のボルト・ナットの緩みを点検し、緩んでいれば締めてください。
(6) 格納場所は、周囲に紙やワラなど燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した場所を選んでください。
(7) 走行クラッチレバーを「切」位置にし、歯止め（車止め）をしておいてください。
(8) エンジン部は、燃料タンク・気化器内のガソリンを完全に抜いて格納してください。

※「エンジン取扱説明書」参照

■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

●始業点検を確実に行なってください。
●エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で５分程、運転してください。

■エンジン周りの清掃（火災防止のために）

(1)　作業中、エンジン周りに草・藁等が付着した場合には、速やかに取り除いてください。特に、マフラー等高温部に付着していると発火し、火災の原因となり、大変危険です。（清掃は、エンジンを停止し、高温部が冷めてから作業を行ってください。火傷のおそれがあります。）

(2)　長期格納の前には、エンジン周りに付着している草・藁等を販売店のコンプレッサ等を使用し、シリンダヘッド（プラグ部）や、マフラー（取付部）等の高温になる所は、必ずゴミを取り除いてください。

不調時の対応のしかた

■エンジン関係

故　障　状　況	原　　　因	処　　　置	参照ページ
始　動　困　難	●始動操作不良	●正しく操作する	２３・２４
	●走行クラッチ「入」	●走行クラッチを「切」にする	２５
	●スロットルワイヤ調整不良	●スロットルワイヤの調整	エンジン取説
	●燃料不足	●ガソリンの補給	—
	●点火プラグ不良	●点火プラグの清掃又は交換	エンジン取説
エンジン回転が不規則である	●ホース系の燃料もれまたはエアー混入	●クランプ締付けまたはホース交換	※
	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの掃除または交換	エンジン取説
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまり	●サービス工場で清掃または交換	※
エンジンを低速にすると停止する	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまりおよび調整不良	●気化器の清掃・調整または交換	※
	●スロットル調整不良	●スロットルの調整	エンジン取説
運転中に突然、エンジンが停止した	●燃料不足	●燃料補給	２３
	●エンジンオイル不足	●エンジンオイルの補給	３７
	●オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付	●エンジンの修理または交換	※
	●プラグキャップの緩み	●プラグキャップを正しく取付ける	エンジン取説
マフラから異常な煙がでる	●エアクリーナの目詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が多い	●点検し適正量にする	３７
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●燃料がよくない	●正規の燃料に入れ換える	—

故　障　状　況	原　　　　　因	処　　　　　置	参照ページ
エンジン出力不足	●何かを積載または足周りやカッター部に異物が噛み込んで抵抗になっている	●抵抗を取り除く	—
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
エンジン出力不足	●点火プラグ不良	●点火プラグの清掃または交換	５５ エンジン取説
	●エンジンオイル量の不適	●エンジンオイル量を点検し適正量にする	３７ エンジン取説
	●冷却風取入口やシリンダフィン部にゴミが付いている	●清掃する	エンジン取説
	●エアクリーナの目詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイルが汚れている	●エンジンオイルの交換	エンジン取説
	●タンクキャップの空気穴のつまり	●空気穴の清掃	—
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理または交換	※
	●エンジンの過熱	●小休止	—
		●吸気部の清掃	エンジン取説

■操作・走行関係

故　障　状　況	原　　　　　因	処　　　　　置	参照ページ
走行クラッチレバーを「切」位置にしても止まらない	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチの調整	３８
		●ベルトストッパの調整	※
	●ブレーキシューの磨耗	●ブレーキの調整	３９
		●ブレーキ（62）ASSYの交換	４０
走行クラッチレバーを「入」にしても発進しない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチの調整	３８
		●走行ベルトの交換	５５
	●サイドクラッチの抜け	●サイドクラッチの調整	３９
	●ブレーキの調整不良	●ブレーキの調整	３９
変速レバーが各変速位置に入らない	●変速レバーの調整不良	●変速レバーの調整	※
	●変速レバーの変形	●変速レバーの修正または交換	※
ブレーキが効かない	●ブレーキシューの磨耗	●ブレーキの調整	３９
		●シューの交換	４０

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
サイドクラッチレバーを引いても旋回しない	●サイドクラッチ各部の遊び	●サイドクラッチの調整	３９
	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチの調整	３８
		●走行ベルトの交換	５５
クローラの歯とび	●クローラの緩み	●クローラの張り調整	４１

■カッタ部

故障状況	原　　因	処　　置	参照ページ
回転刃が回らない	●回転刃駆動ベルトの緩み	●回転刃駆動ベルトの調整	４２
	●回転刃駆動ベルトの切れ、すべり	●回転刃駆動ベルトの交換	５５
ロール部が回らない	●ロール部駆動ベルトの緩み	●ロール部駆動ベルトの調整	４２
	●ロール部駆動ベルト及びチェンの切れ、すべり	●ロール部駆動ベルト・チェンの交換	５５
	●回転刃駆動ベルトの緩み	●回転刃駆動ベルトの調整	４２
	●回転刃駆動ベルトの切れ、すべり	●回転刃駆動ベルトの交換	５５
回転刃他から異音がする	●回転刃の干渉	●回転刃のすきま調整	４１
	●回転部の油切れ	●注油	３８
	●異物の内部付着	●ワラ受け及び排出筒のオープンによる異物の排除	―
切れ味が悪い	●回転刃のすきま調整不良	●回転刃のすきま調整	４１
	●回転刃の損傷	●グラインダによる刃研ぎ ●回転刃の交換	※ ５５

●参照ページの欄に※マークがある項目については、お買いあげ先へご相談ください。

農作業を安全におこなうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。ここに、自走式カッターを使用される方のために､特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しております。
事故のない楽しい作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1)　適用範囲

一般共通事項は、機械を使用して行う作業に従事する者が作業の安全を確保するための注意すべき事項を示すものである。

(2)　就業条件

①安全作業の心得
機械を使用して行う作業（以下、「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件
次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。
●精神病者
●酒気をおびた者
●若年者
●未熟練者
●過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者。
激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。
妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全
暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分に検討すること。

(3)　子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないよう注意すること。

(4) 安全のための機械管理

①日常の点検整備
農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

②防護装置の点検
●機械作業に従事するものは、機械の操縦装置、制動装置等防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。
●機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③揚げ装置の落下の防止
作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の装置を講じること。

④整備工具の管理
点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5) 火災・爆発の防止

①引火・爆発物の取り扱い
引火又は、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

②火災予防の措置
火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6) 服装および保護具の使用

次の作業に際しては、適正な服装および保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

①頭の傷害防止の措置
機械からの堕落及び、落下物の恐れの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

②巻き込まれによる傷害防止の措置
原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

③足の傷害及びスリップ防止の措置
機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん及び有害ガスに対する措置
多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあっては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤激しい騒音に対する措置
激しい騒音の伴う作業にあっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑥保護具の取り扱い
安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

移動機械共通事項

(1) 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

(2) 作業前の注意事項

①機械の点検整備
- ●機械の点検整備を十分行い、その使用にあたっては、常に安全を確認すること。
- ●機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所でかつ安全な方法で確実に行うこと。特に、屋内で燃焼機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

②防護装置の保全

●機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
●機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

③悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法および装備の選択等に注意すること。

(3) 作業中の注意事項

①乗車等の禁止

機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

②前方及び後方の安全確認

運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

③転倒落下の防止

●圃場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転倒を防ぐために、特に注意すること。
●機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

④傷害の防止

●動力伝動装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。
●刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行う場合は、傷害防止のために特に注意すること。

⑤道路走行の安全

●道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。
●道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。
●刃物または鋭利な突起物を有する機械を道路走行させる場合は、おおいをつけるかまたはこれを取り外す等、特に傷害防止のために注意すること。
●悪条件の道路での高速運転の禁止
凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。
●坂道における安全確保
降坂時は、必ずエンジンブレーキを用いること。また、操向クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上がりに注意すること。

⑥夜間における安全
夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行うこと。
夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること

⑦作業中の点検調整等における安全措置
機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。
休憩等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

(4) 終業後の注意事項

①終業後の点検整備
作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

②作業機のとりはずし
作業機のとりはずしは、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。とくに夜間の作業機のとりはずしは、安全で適切な照明を用い、安全に留意して行うこと。

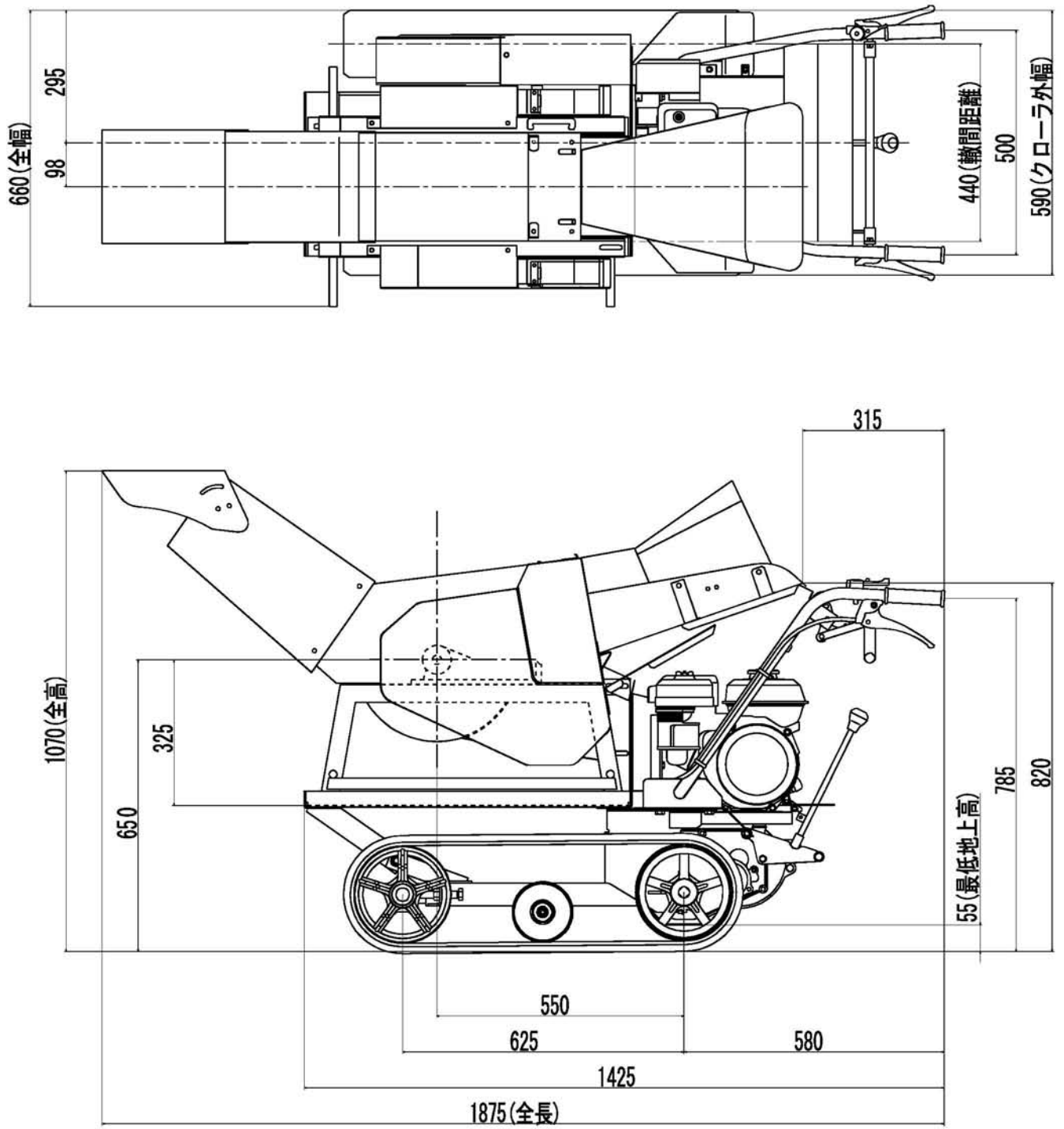
③機械の安全管理
作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。
また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

サービス資料

主要諸元

区分	項目			諸元
名称				自走式カッター
型式				ＣＳＸ１７０－Ｃ
車体	質量(kg)			１９０
車体	全長(mm)			１８７５
車体	全幅(mm)			６６０
車体	全高(mm)			１０７０
カッタ部	カッター部型式			シリンダ跳出式　ＣＳ１７０－ＡＢ
カッタ部	駆動部クラッチ機構			ベルトテンションクラッチ
カッタ部	供給部	ロール幅（mm）		１７０
カッタ部	供給部	ロールの種類		突起ロール
カッタ部	供給部	ロール径	上ロール	１０３
カッタ部	供給部	ロール径	下ロール	９９
カッタ部	切断部	回転刃		スパイラル刃　２枚
カッタ部	切断部	固定刃		直刃　１枚
カッタ部	切断部	切断寸法切換機構		歯車交換式
カッタ部	切断部	標準切断寸法（mm）		１５・３０・８５・１５０
カッタ部	跳出距離（m）			５～８
カッタ部	処理能力（kg／h）			２０００～３０００
走行部	走行形式			芯がね無しゴムクローラ（後駆動）
走行部	操向形式			サイドクラッチ（爪）
走行部	ブレーキ形式			内拡式（センタブレーキ）
走行部	クローラサイズ 幅(mm)×ピッチ(mm)×リンク数			１５０×７０×２８
走行部	輪間距離(mm)			４４０（クローラ外幅；５９０）
走行部	接地長(mm)			６２５
走行部	変速段数			前進；２　後進；２
走行部	変速段走行速(km/h)	前進	１速	２．０
走行部	変速段走行速(km/h)	前進	２速	４．０
走行部	変速段走行速(km/h)	後進	１速	１．５
走行部	変速段走行速(km/h)	後進	２速	２．９
最低地上高（mm）				５５
エンジン	種類・型式			空冷４サイクル傾斜型単気筒ＯＨＶ式ガソリンエンジン・ホンダＧＸ１２０
エンジン	定格(最大)出力(kW/mim^{-1})			2.1(2.9)/3600(4000)　[2.8PS/3600rpm(4.0PS/4000rpm)]
エンジン	最大トルク(N･m/mim^{-1})			7.4/2500　[0.75kgf･m/2500rpm]
エンジン	燃料(ﾀﾝｸ容量)［ﾘｯﾄﾙ］			無鉛ガソリン（約2.5）
エンジン	総排気量(cc)			１１８
エンジン	始動装置			リコイルスタータ

外観図

295
98
660(全幅)
440(轍間距離)
500
590(クローラ外幅)
315
1070(全高)
325
650
785
820
55(最低地上高)
550
625
580
1425
1875(全長)

主な消耗部品

消耗部品のご注文の際は、部品番号をお確かめの上、お買いあげ先へご相談ください。

部品番号	部品名称	個数	使用箇所・備考
0331-510-013-	ベルト(Vコグ A033)	1	走行用ベルト
0337-522-211-	コグベルト（SB27HP4）	1	作業クラッチ用ベルト
V817-200-060-	Vベルト（SB-60 レッド）	1	カッター駆動用ベルト
V817-000-042-	Vベルト（SB-42）	1	ロール部駆動ベルト
0126-302-017-	チェン（38#40）	1	ロール部チェン（呼び 40）
0125-201-004-	カイテンバ	2	回転刃
0166-431-011-	コテイバ	1	固定刃
0337-351-011-	クローラ（150X28X70）	2	走行クローラ
0337-422-013-	ゴムザ（27）	8	エンジンベース取付け用（防振用）
0337-422-012-	カラー（12）	4	エンジンベース取付け用（防振用）
――――――	点火プラグ	1	NGK BR6HS

索　引

索　引

困ったり、わからないことがあれば

販売店
住所〒　　－
℡　　　－　　　－
担当；

までご連絡ください。

型　　式	
製造番号	

※ご使用になる前にメモしておくと、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する

株式会社アテックス

本　　　　社　愛媛県松山市衣山１丁目２－５　〒791-8524
ＴＥＬ(089)924-7161（代）　ＦＡＸ(089)925-0771
ＴＥＬ(089)924-7162（営業直通）
ホームページ http://www.atexnet.co.jp/

東北営業所　岩手県紫波郡矢巾町広宮沢第11地割北川505-1　〒028-3621
ＴＥＬ(019)697-0220（代）　ＦＡＸ(019)697-0221

関東支店　茨城県猿島郡五霞町元栗橋６６３３　〒306-0313
ＴＥＬ(0280)84-4231（代）　ＦＡＸ(0280)84-4233

中部営業所　岐阜県大垣市本今５丁目１２８　〒503-0931
ＴＥＬ(0584)89-8141（代）　ＦＡＸ(0584)89-8155

中四国支店　愛媛県松山市衣山１丁目２－５　〒791-8524
ＴＥＬ(089)924-7162（代）　ＦＡＸ(089)925-0771

九州営業所　熊本県菊池郡菊陽町大字原水１２６２－１　〒869-1102
ＴＥＬ(096)292-3076（代）　ＦＡＸ(096)292-3423

部品センター　愛媛県松山市馬木町８９９－６　〒799-2655
ＴＥＬ(089)979-5910（代）　ＦＡＸ(089)979-5950

部品コード	0166-944-013-0